

平成18年度業務実績報告書

平成19年6月
独立行政法人国立美術館

目 次

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
常設展	3
企画展	4
地方巡回展	6
東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等	6
(2) 美術創造活動の活性化の推進	7
公募展等への展覧会会場の提供(国立新美術館)	7
新しい芸術表現への取組み	7
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	7
情報通信技術(ICT)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	7
美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	8
(4) 国民の美的感性の育成	9
幅広い学習機会の提供	9
ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	11
映画フィルム・資料を活用した教育普及活動(フィルムセンター)	12
(5) 調査研究成果の美術館活動への反映	12
(6) 快適な観覧環境の提供	18
高齢者、身体障害者、外国人等への対応	18
展示、解説の工夫と音声ガイドの導入	18
入場料金、開館時間等の弾力化	19
キャンパスメンバーズ制度の実施	20
ミュージアムショップ、レストラン等の充実	20
(7) 国立新美術館の開館	20
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	
(1) 美術作品の収集	22
(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等	23
収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応	23
保存環境の整備等と防災対策の推進・充実	24
(3) 所蔵作品の修理・修復	24
(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究	24
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	
(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信	28
研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信	28
所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	29
(2) 国内外の美術館等との連携	30
シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築	30
我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力	32
(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換	33
(4) 所蔵作品の貸与等	34
(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動	34
美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施	34
先駆的・実験的な教材やプログラムの開発	35
(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成	35
(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築	35
企画展・上映会等の共同主催と共同研究	35
キュレーター研修	36
その他	36
(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動	36

国際フィルム・アーカイブ連盟（F I A F）の正会員としての活動	36
日本映画情報システムの運営	37
所蔵映画フィルム検索システムの拡充	37
映画関係団体等との連携	37
フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討	37
業務運営の効率化	
1 業務の効率化のための取り組み	38
（1）各美術館の共通的な事務の一元化	38
（2）使用資源の削減	38
（3）美術館施設の利用推進	39
（4）民間委託の推進	40
（5）競争入札の推進	40
2 事業評価及び職員の研修等	40
3 管理情報の安全性向上	41
4 人件費の抑制，給与体系の見直し	42
予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画	
1 予算	44
2 収支計画	45
3 資金計画	46
4 貸借対照表	46
5 短期借入金	46
6 重要な財産の処分等	46
7 剰余金	47
8 人事に関する計画	47
9 施設整備に関する計画	49
10 関連公益法人	49

（別紙）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1. 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

常設展

館名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数
東京国立近代美術館本館	292	5	255,665	195,000
東京国立近代美術館工芸館	78	1	40,703	17,000
京都国立近代美術館	305	14	274,268	123,000
国立西洋美術館	305	0	273,421	266,000
国立国際美術館	269	4	188,861	139,000
計	1,249	24	1,032,918	740,000

注 国立西洋美術館の常設展は通年で開催しているが、随時展示作品の入れ替えを行うとともに、版画所蔵作品展を併設（平成18年度は3回開催）している。

各館の特徴

ア 東京国立近代美術館

(本館)

日本画、洋画、版画、水彩・素描、彫刻、写真等の各分野にわたる約9,500点の所蔵作品の中から、180～250点の作品を選び、3フロアを使用し、近代美術の流れが概観できるように展示した所蔵作品展「近代日本の美術」や特定の作家・テーマに沿った特集展示を行っている。

平成18年度は、様々な小特集を充実させることにより、多くの人々の興味・関心を喚起し、新聞・雑誌等にも取り上げられた。とりわけ展示室「ギャラリー4」の特集では、国立美術館他館の作品を併せて展示するとともに、パンフレットも作成・配布した。展示に企画性を持たせることにより、編年的に展示するだけでは見えてこない作品の新たな魅力を強調することができた。

また、現代美術への関心を高めるため、作家が作品の前で語るアーティストトークを5回実施し、その模様をDVD化し閲覧できるようにした。また、要望の多かった音声ガイドについて、平成19年度実施に向けて準備を進めた。新聞広告による常設展のアピールも認知度の向上に成果をあげた。

(工芸館)

陶磁、ガラス、染織、漆工、木竹工、金工・ジュエリー、人形、グラフィック・デザイン等の各分野にわたる約2,600点の所蔵作品の中から、約90～100点の作品を選び、工芸の歴史や特定のテーマに沿った展示を行っている。

工芸館の常設展は、これまでは「所蔵作品展：近代工芸の名品」又は「所蔵作品展：近代工芸の百年」として開催してきたが、平成18年度から、タイトルを「花より工芸：新収蔵作品を中心に2001-2005」、「所蔵作品展：近代工芸の百年／特集展示：ルーシー・リーとハンス・コパー」のように展示内容をアピールするものに工夫した。季節に応じた展示内容とするとともに、欧米の人気作家の特集展示を行った。また、要望の多い、作品名の読み、素材、技法を記した資料を配布した。

イ 京都国立近代美術館

日本画、洋画、版画、彫刻及び陶芸、染織、金工、木竹工、漆工、ジュエリー等の工芸、写真等約8,600点の中から、展示替え（年14回）を行い、近代日本美術の代表作や記念的な作品を中心に欧米の近・現代作品も併せて展示するとともに、企画展に合わせた小企画も同時開催している。

平成18年度は、企画展と連動した小企画やテーマ展示を充実させた。また、期間を限定して一般鑑賞者が特に希望する作品を展示する「視て考えて・・・私が見つかる美術のセカイ あなただけのコレクション」、大学の授業に美術館が協力し、その研究成果発表の機会として「スチューデント・セレクト - 同志社大学プロジェクト科目受講者による京都国立近代美術館コレクション展」を開催するなど、実験的な試みを行った。

ウ 国立西洋美術館

松方コレクション（印象派の絵画及びロダンの彫刻を中心とするフランス美術コレクション）及び中世末期から20世紀初頭までの西洋美術に関する作品の中から、絵画、素描、版画、彫刻、工芸等150～200点の作品を選び、西洋美術の流れが概観できる展示を行っている。

平成18年度は、前年度に購入した絵画作品6点を常設展に加えたことにより、特に18世紀以前のフランドル及びイタリア絵画の展示を充実した。固定化されていた19世紀後半の展示についても、一部作品の入れ替えを行うとともに、年間を通じて版画作品展を併設した。

また、1月2日には「美術館へ行こう～A Day in the Museum」（特定非営利活動法人 美術ファンクラブ等と協力）を開催し、常設展の無料観覧及び特別企画を実施した。本企画により、多くの入館者（4,848人）があった。

エ 国立国際美術館

美術作品の展示を通じ、日本美術の成立と発展が、世界の美術と密接な関係を有することを系統的・具体的に明らかにするとともに、我が国と世界の現代美術の新しい動向を分かりやすく展示している。

平成18年度は、展示テーマごとに、作品が制作された背景や作家の意図等を解説し、作品理解の一助とするなど、広い見地から現代美術への理解を深められるよう工夫した。また、常設展への関心を高めるため、企画展と関連のある作品を展示した。

企画展

企画展は、利用者のニーズに応え、以下の観点に留意して実施した。

- （イ）国際的視野に立ち、海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。
- （ロ）展覧会テーマの設定やその提示方法等について新しい方向性を示すことに努める。
- （ハ）メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
- （ニ）過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に努める。
- （ホ）その他

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
東京国立 近代美術 館・本館	生誕120年 藤田嗣治展	46	295,665	141,000	イ
	生誕100年記念 吉原治良展	42	19,020	13,000	ホ(*1)
	モダン・パラダイス展 大原美術館+東京国立近代美術館 東西名画の饗宴	54	84,682	67,000	ロ
	写真の現在3 臨界をめぐる6つの試論	42	17,893	14,000	ロ
	揺らぐ近代 日本画と洋画のはざまに	48	15,347	16,000	ロ
	都路華香展	39	11,043	12,000	ニ
	生誕100年 巒光展	2	1,021	1,000	ロ

	計	273	444,671	264,000	
東京国立 近代美術 館・工芸 館	萩焼の造形美 人間国宝 三輪壽雪の世界	62	28,751	15,000	口
	ジュエリーの今：変貌のオブジェ	56	11,063	9,000	口
	漆芸界の巨匠 人間国宝 松田権六の世界	57	44,563	13,000	口
	柳宗理・生活の中のデザイン・	39	34,418	14,000	口
	青磁を極める・岡部嶺男展	24	4,094	5,000	二
	計	238	122,889	56,000	
京都国立 近代美術 館	ドイツ表現主義の彫刻家・エルンスト・ バルラハ展	2	3,129	1,000	イ
	フンデルトヴァッサー展	37	30,634	20,000	口
	藤田嗣治展	48	224,297	75,000	イ
	富本憲吉展	36	36,796	19,000	口
	プライスコレクション若冲と江戸絵 画展	38	110,419	25,000	イ, 口
	都路華香展	33	9,139	13,000	二
	揺らぐ近代・日本画と洋画のはざまに	41	18,116	10,000	口
	アール・デコ・ジュエリーの世界 輝 きの詩人シャルル・ジャコー, プシュロ ン, ラリックらの宝飾デザイン展	23	17,166	16,000	イ, 二
計	258	449,696	179,000		
国立西洋 美術館	ロダンとカリエール	57	80,019	143,000	イ, 口, 二
	ベルギー王立美術館展	78	247,009	252,000	イ, 口
	イタリア・ルネサンス版画展	23	11,881	9,000	イ
	計	158	338,909	404,000	
国立国際 美術館	プーシキン美術館展	2	13,689	10,000	イ
	ジグマー・ボルケ展	49	16,819	10,000	イ, 口
	三つの個展：伊藤存, 今村源, 須田悦弘	73	19,088	13,000	口, 八
	金子潤展	45	15,612	9,000	口
	小川信治展	74	22,090	15,000	八
	エッセンシャル・ペインティング	72	16,325	15,000	イ, 口
	ピカソの版画と陶芸	62	113,380	87,000	ホ(*2)
	大阪コレクションズ	60	109,228	87,000	口
計	437	326,231	246,000		
国立新美 術館	開館記念展：20世紀美術探検	51	89,475	100,000	口, 八
	異邦人(エトランジェ)たちのパリ19 00-2005	46	190,333	120,000	イ, 口, 八
	黒川紀章展	51	166,793	73,000	八
	文化庁メディア芸術祭10周年企画展	14	52,093	27,000	八
	計	162	498,694	320,000	
合 計			2,181,090	1,469,000	

(*1)東京国立近代美術館の「生誕100年 吉原治良」展は、複数館の共同調査・研究を集大成した回顧展であり、(イ)(口)(八)(二)に該当しない展覧会であるため(ホ)その他とした。

(*2)国立国際美術館の「ピカソの版画と陶芸」展は、貴重な寄託作品の有効な活用に努めた展覧会であり、(イ)(ロ)(ハ)(ニ)に該当しない展覧会であるため(ホ)その他とした。

地方巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
京都国立近代美術館	独立行政法人国立美術館所蔵巡回展「名作と出会う 洋画・日本画・工芸・彫刻」	石橋財団石橋美術館	45	15,624
東京国立近代美術館・工芸館	やきものの美 東京国立近代美術館工芸館名品展	倉敷市立美術館	39	5,330
		はつかいち美術ギャラリー	39	4,421
京都国立近代美術館	京都国立近代美術館所蔵品展	平塚市美術館	37	9,361
		そごう美術館	31	21,419
		富山県水墨美術館	38	15,941
		大分市美術館	40	10,209
国立国際美術館	佐伯祐三とパリの夢:大阪コレクションズ	大阪市立近代美術館心斎橋展示室	63	27,338
東京国立近代美術館・フィルムセンター	優秀映画鑑賞推進事業	全国179会場	418 (延べ日数)	94,684
計				204,327

東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等

【上映会】

タイトル	会場	作品数	日数	入館者数	目標数	共催者
シナリオ作家 新藤兼人	大ホール	67	48	22,018	21,000	
NFC所蔵外国映画選集 フランス古典映画への誘い	大ホール	34	24	11,348	6,500	東京日仏学院
ロシア文化フェスティバル 2006 IN JAPAN ロシア・ソビエト映画祭	大ホール	28	24	9,538	6,000	ロシア・ソビエト映画祭実行委員会
日本映画史横断 日活アクション映画の世界	大ホール	57	48	13,250	15,000	
日豪交流年2006 オーストラリア映画祭	大ホール	41	24	5,287	3,500	オーストラリア・フィルム・コミッション
没後50年 溝口健二再発見	大ホール	35	41	22,089	16,000	
第7回東京フィルメックス 特集上映 岡本喜八 日本映画のダンディズム	大ホール	12	8	3,300	3,500	NPO法人東京フィルメックス実行委員会
日本映画史横断 歌謡・ミュージカル映画名作選	大ホール	27	27	9,937	6,500	
シリーズ・日本の撮影監督(2)	大ホール	55	47	17,239	15,000	
映画の教室2006	小ホール	12	12	3,270	1,500	
アンコール特集:2005年度上映作品より	小ホール	15	9	2,173	1,000	
生誕100周年記念 美術監督 水谷浩 作品選集	小ホール	10	9	2,109	1,000	

シネマの冒険 闇と音楽 2 006	小ホール	18	9	1,398	1,000	
CHANBARA 市川右太衛門	小ホール	10	9	1,819	1,000	
計		421		124,775	98,500	

【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数
生誕100周年記念 美術監督 水谷浩の仕事 併設:展覧会映画遺産 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより	144	4,969	6,500
生誕110周年記念 衣笠貞之助の世界 併設:展覧会映画遺産 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより	147	4,325	5,500
計	291	9,294	12,000

(2) 美術創造活動の活性化の推進

公募展等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

平成19年度からの美術団体等への展覧会（公募展）会場提供事業の開始に向けて、以下の活動を行った。

- ・ 施設見学会の実施（平成18年8月～11月）
- ・ 作品搬入、審査等を行う諸室等の割振の実施
- ・ 使用手引きの作成
- ・ 施設・備品等の効率的な運用を図るため、バックヤード等の施設・備品等の運用に関するワーキンググループ委員会の開催（5回）
- ・ 平成20年度使用団体の決定（平成18年5月）
- ・ 平成21年度使用団体の募集（平成19年2月）

新しい芸術表現への取り組み

【国立新美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
20世紀美術探検	51	ウイテアート、インスタレーション	89,475	100,000	なし
黒川紀章展	51	建築	166,793	73,000	実行委員会
文化庁メディア芸術祭10周年企画展	14	アニメーション、マンガ、デジタルアート、ゲーム	52,093	27,000	文化庁
異邦人(エトランジェ)たちのパリ	46	ウイテアート	190,333	120,000	朝日新聞他
計	162		498,694	320,000	

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ホームページのアクセス件数

館名	アクセス件数	目標件数（第1期平均）
本部	280,860	74,434
東京国立近代美術館	6,979,128	4,341,163
京都国立近代美術館	2,610,420	222,502
国立西洋美術館	1,156,815	720,126

国立国際美術館	542,094	366,054
国立新美術館	6,463,532	
計	18,032,849	5,724,279

各館のICT活用の特徴

ア 東京国立近代美術館

ホームページのトップページのデザインをリニューアルするとともに、展覧会などの情報を迅速に更新するため、各担当係がアップデートできる体制とした。

また、本館アトライブラリが所蔵する国内展覧会カタログの書誌・所在情報の国立情報学研究所目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）への登録について、同研究所の遡及入力支援事業により4,004件を登録した。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムについて、作品及び作家解説の閲読ができるようシステムを更新するとともに、1,520件の解説を掲載した。

また、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、日本画の著作権者情報を整備するとともに、作品画像の掲載を推進するため著作権許諾申請手続を開始した。

イ 京都国立近代美術館

ホームページの構造・デザインをリニューアルし、展覧会情報の公開等情報の更新を迅速に行う体制を整えた。

また、「Collection on Demand」、「電子メール討論会」等、情報通信技術の特色である双方向性を生かした新しい試みを実施した。

ウ 国立西洋美術館

電子タグやエリアポータル放送など先端技術を取り入れて美術に一層親しんでもらうことを目指す「ウェル.com美術館プロジェクト」を立ち上げ、映像ガイド端末やオン・デマンド印刷などによる来館者サービスの実証実験を行った。

また、展覧会情報や調査研究成果の公表を効果的に行うため、ホームページの構成等の見直しを検討し、来年度、ホームページのリニューアルを行うこととした。

エ 国立国際美術館

ヤフー等の検索サイトを活用し、展覧会等の情報を利用者に分かりやすく提供することにより、展覧会の内容や館の周知に努めた。

オ 国立新美術館

インターネット上で他の美術館や公募団体展、画廊での展覧会情報（1万件）を検索できるサービス「アート commons」を開始した。

また、東京国立近代美術館、国立西洋美術館が参加する、「美術図書館連絡会」（ALC）の美術図書館横断検索システムに参加した。

美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

図書資料等の収集

館名	収集件数	累計件数	利用者数	目標数
東京国立近代美術館本館	2,784	102,456	3,252	1,853
東京国立近代美術館工芸館	1,071	14,683	332	317
東京国立近代美術館フィルムセンター	1,017	26,230	3,009	3,085
京都国立近代美術館	1,472	13,685		
国立西洋美術館	4,691	40,511	349	119
国立国際美術館	1,266	30,792		

国立新美術館	51,942	51,942	45,247	
計	64,243	280,299	52,189	5,374

注1 京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階にカタログ等が閲覧できる情報コーナーを設け、入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。

注2 国立新美術館は、目標数を設定していない。

特記事項

国立西洋美術館は、国内における西洋美術史研究のセンター的機能を担うため、今後、中世末期以降20世紀初頭に到る西洋美術に関する資料の重点的収集に努めるとともに、その方策の検討に着手した。

国立新美術館では、JAC(Japan Art Catalog)プロジェクトとして、海外では入手が困難な日本で開催された展覧会カタログをとりまとめ、欧米の美術研究の拠点(フリーア美術館(米国)他3機関)に送り、日本の美術館による最新の研究成果を発信した。

所蔵作品データ等のデジタル化

館名	画像データ				テキストデータ			
	デジタル化件数	デジタル化累計	公開件数	目標公開件数	デジタル化件数	デジタル化累計	公開件数	目標公開件数
東京国立近代美術館	480	9,704	1,400	1,394	136	9,490	9,202	9,144
本館	400	2,593	44	23	52	2,593	2,541	2,516
工芸館	0	0	-	-	7,155	85,271	-	-
フィルムセンター(映画関連資料)	500	5,350	517	517	454	8,628	6,950	5,612
京都国立近代美術館	1,437	1,770	202	202	66	4,511	4,244	4,058
国立西洋美術館	3,407	5,472	5	5	119	6,306	5,330	5,101
国立国際美術館	6,224	24,889	2,168	2,145	7,982	116,799	28,355	26,431
計								

注 「公開件数」は、所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。

インフォメーションデータセンター(IDC)の確立

国立美術館情報ネットワーク構築のため、東京国立近代美術館及び国立新美術館においてVPN(暗号化された通信網)を整備するとともに、平成19年度実施予定の国立美術館全5館による情報ネットワーク確立のための検討を行った。

また、東京国立近代美術館及び国立新美術館において、図書管理システムの相互運用をVPNを用いて効率的に行った。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムは引き続きデータの追加更新を行うとともに、画像掲載の増加を図るため、日本画作品の著作権許諾の手続きを開始した。

(4) 国民の美的感性の育成

幅広い学習機会の提供(講演会、ギャラリートーク、アーティストトークなど)

館名	実施回数	参加者数	目標数
東京国立近代美術館本館	74	3,389	2,718
東京国立近代美術館工芸館	35	2,378	1,285
東京国立近代美術館フィルムセンター	77	7,449	1,470
京都国立近代美術館	25	1,638	1,590
国立西洋美術館	155	6,892	5,582
国立国際美術館	51	2,190	2,340

国立新美術館	49	4,788	-
計	466	28,724	14,985

各館の特徴

ア 東京国立近代美術館

【本館】

常設展，企画展等において，講演やアーティストトーク，キュレータートークを実施した。

また，「夏休み！こども美術館」を実施するとともに，フォローアップ研修等によりボランティアスタッフの，子どもへの鑑賞指導スキルの向上を図った。このことにより，児童生徒が申し出る展覧会見学への対応をボランティアスタッフが行う体制を整えた。この効果は，児童生徒を対象とするギャラリートークの回数・参加者数が増加したことに現れている。

【工芸館】

展覧会企画にあわせて外部研究者や作家によるギャラリートークを実施し，様々な入館者に応じた解説を行った。パフォーマンスや制作のデモンストレーションの開催は，作品鑑賞の多様な可能性を提言することができ，アンケート結果も好評であった。

児童生徒向けの鑑賞教材（セルフガイド）は，作品の解説に合わせて作品図版を部分と全体との2段階で見せたり，制作工程の図解等の工夫を加えて，分かりやすい内容とした。また，セルフガイド配布に当たっては，保護者や引率教員に，セルフガイドの活用案を記載した館内で作成した資料を手渡した。

文京区駒本小学校との共同プログラムでは，館内でのガイドに留まらず，事前・事後の学習においても協力関係を築くなど，今後の連携の在り方や児童生徒向けの鑑賞教育を検証するモデルケースとなった。

なお，平成15年度から18年度までの鑑賞プログラムの報告書を作成し，プログラム当日の実施内容だけでなく，計画段階から準備の詳細，さらに参加者の反応等を詳細に記録・検証し，今後の課題や鑑賞授業への提案とともにまとめた。

【フィルムセンター】

常設展「映画遺産」に関連して展示資料を平易に解説した子ども向けのセルフガイド（解説カード）を配付した。

イ 京都国立近代美術館

美術館の鑑賞者・利用者の側から，美術館活用の自発的な提案が増加してきた。これは，鑑賞理念や美術館活用の潜在的な可能性について，当館が鑑賞教育指導者と長年にわたり研究・試行してきた努力の成果が実を結び始めたものである。

また，NPO法人の視覚障害者に対する美術体験の場を提供し，作品解説等の協力を行った。

ウ 国立西洋美術館

東京都図画工作研究会，東京国立近代美術館との共同による鑑賞と美術館利用のための教員研修会の成果としてスクール・ギャラリートークの利用学校数が増加した。

また，幅広い学習の機会を提供するため，未修学児童を含む家族向けのプログラムの充実を図るとともに，ボランティア・スタッフの自発性を尊重しつつ協力して企画を練り，低年齢層の児童向けのワークシートなどを作成し，参加した家族から好評を得た。

「Fun with Collection いろいろメガネ Part 2 - みんなの見かた紹介します」では，昨年度に実施したプログラムによって美術館利用者から集めた美術作品の多様な楽しみ方の視点を，展示と印刷物でフィードバックし，来館者から好評を得た。

また，教育普及事業のファミリープログラムで使用している未修学児童を対象として開発し

た教材「びじゅつーる」を、小学生を対象としたスクール・ギャラリートークにおいても活用した。なお、小・中学生を対象とする常設展のガイドブックについて評価調査を実施した結果、中学生にはより多くの情報・知識を含むガイドブックの開発が必要であることが分かり、その作成の検討に入った。

エ 国立国際美術館

企画展に関する講演会等については、参加者の8割以上から好評を得た。子どものプログラムについては、とりわけ、「小川信治展」における作家と子どもの共同作業が、子どもたちが作家から直接話を聞いた上で成立するものであることから、子どもたちにとっては、作家の生の声と濃密な時間を共有する充実した内容となった。制作した作品は、会期中展示した。

オ 国立新美術館

教育普及事業の実施に当たり、展覧会の出品作品の特徴や作家の活動などについて、幅広い層の入館者の理解が促進されるよう事業内容の充実に努めた。特に開館記念展では、現役作家によるアーティストトークで作家の作品に対する思いを直に聞く貴重な機会を提供した。

また、当館シンボルマーク、ロゴを制作したデザイナー佐藤可士和氏によるワークショップや講演会についても、子どもたちが直接作家と接することのできる機会を提供した。実施に当たっては、学生ボランティア「サポート・スタッフ」の事業への参加を促し、美術館活動の実地体験の機会を提供した。

ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ボランティアによる教育普及事業

館名	ボランティア登録人数	ボランティア参加者数	事業参加者数
東京国立近代美術館	51	556	10,736
京都国立近代美術館	30	204	-
国立西洋美術館	18	556	2,937
国立国際美術館	86	170	-
国立新美術館	43	162	-
計	228	1,665	13,656

各館の特徴

ア 東京国立近代美術館

本館においては、「夏休み！こども美術館」実施やフォローアップ研修など、ボランティアの子どもへの鑑賞指導スキル向上を図った。これらの取り組みにより、児童生徒へのギャラリートークが、回数・聴講者数ともに増加している。

工芸館においては、ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）は導入から3年目を迎え、第2期目のメンバーを加えたことにより、新たな視点からガイドを実施するなど、その内容の幅が広がったこと、多人数の見学にも充分対応することができるようになった。

イ 京都国立近代美術館

ボランティアを展覧会ごとに募集し、アンケートの聞き取り、広報資料の発送作業等を実施した。

ウ 国立西洋美術館

幅広い学習の機会を提供するため、ボランティア・スタッフの自発性を尊重しつつ協力して企画を練り、低年齢層の児童向けのワークシートなどを作成し、参加した家族から好評を

得た。

エ 国立国際美術館

教育普及事業の補助業務，広報資料の発送及び図書資料等の整理補助業務を実施した。

オ 国立新美術館

教育普及事業の実施に当たっては，学生ボランティア「サポート・スタッフ」の事業への参加を促し，美術館活動の実地体験の機会を提供した。

支援団体等の育成と相互協力による事業

ア コンサート等の実施

新国立劇場，京都市立芸術大学，東京のオペラの森実行委員会，ダイキン工業現代美術振興財団等との協力により，各館においてコンサートやオペラなどを開催（19回）。

イ ぐるっとパスへの参加。

東京の美術館・博物館等49館で実施する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス2007」及び関西の美術館・博物館等65館で実施する「ミュージアムぐるっとパス・関西2007」に参加し，常設展観覧料金の無料化などを実施。

ウ NPO法人との連携

- ・東京国立近代美術館（本館）及び国立西洋美術館では「特定非営利活動法人 美術ファンクラブ」ほかとの協力により，「美術館へ行こう A Day in the Museum」を1月2日に無料観覧日として開催するとともに，グッズプレゼントなど特別企画を実施した。
- ・京都国立近代美術館は，NPO法人「ミュージアム・アクセス・ビュー」と連携し，視覚障害者を対象とする美術体験の場の提供活動において，作品解説等の協力を行った。

エ 六本木地区の美術館等との連携・協力

国立新美術館では，六本木地区の美術館等との連携・協力により「六本木アート・トライアングルマップ」を配布するとともに，六本木ヒルズとの連携・協力により土・日・祝日にシャトルバスを運行した（平成19年3月5日～5月7日：1日23便）。

映画フィルム・資料を活用した教育普及活動（フィルムセンター）

小・中学生に映画のおもしろさを知ってもらうことをねらいとして，上映作品や映写機の解説など行う「こども映画館」を実施した（4回，参加者359人）。

また，相模原分館では，相模原市教育委員会と連携して，こども向けの名作を上映する「小・中学生向け上映」を実施した（2回，参加者215人）。

（5）調査研究成果の美術館活動への反映

ア 東京国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
戦後の日本における芸術とテクノロジー（科研費）	研究成果報告書の刊行。	埼玉大学，武蔵野美術大学，神奈川県立近代美術館
所蔵作品を中心とした近・現代美術に関する調査研究	所蔵作品展の開催。	
藤田嗣治に関する研究	「藤田嗣治展」を開催。同展の図録を刊行。	京都国立近代美術館，広島県立美術館
吉原治良に関する調査研究	「吉原治良展」を開催。同展の図録を刊行。	大阪市立近代美術館建設準備室，愛知県美術館，宮城県立美術館

日本画と洋画の表現・技法の影響関係に関する調査研究	「揺らぐ近代 - 日本画と洋画のはざまに」展を開催。同展の図録を刊行。	京都国立近代美術館
日本の現代写真に関する調査研究	「写真の現在3 臨界をめぐる6つの試論」展を開催。同展の図録を刊行。	
都路華香に関する調査研究	「都路華香展」を開催。同展の図録を刊行。	京都国立近代美術館
襲光に関する調査研究	「生誕100年 襲光展」展を開催。同展の図録を刊行。	広島県立美術館,宮城県美術館
アンリ・カルティエ=ブレッソンを始めとする戦後写真の調査研究	「アンリ・カルティエ=ブレッソン展」(平成19年度開催)企画構成。	
平山郁夫の調査研究	「平山郁夫展」(平成19年度開催)企画構成。	広島県立美術館
近代日本彫刻史の調査研究	「日本彫刻の近代」展(平成19年度開催)企画構成。	三重県立美術館,宮城県美術館
現代ジュエリーについての調査研究	ジュエリーの今:変貌のオブジェ	
現代工芸における制作の特質についての調査研究	平成19年度開催の「わざの美:日本の伝統工芸50年」(大英博物館で開催),「工芸館開館30年記念展」(工芸館で開催)に反映する	大英博物館,セインズベリー日本藝術研究所
戦後プロダクトデザインの成立と展開についての調査研究	柳宗理 - 生活の中のデザイン -	柳工業デザイン研究会
普及広報,教育活動のあり方の調査研究,および作品に触れる鑑賞教室と展示解説を中心としたボランティア活動の調査研究	「たんけん!こども工芸館 タカラモノみつけた」(東京国立近代美術館工芸館の教育普及プログラム)タッチ&トークの多角的開催(一般・英語・子ども)	染色作家・京都造形芸術大学教授,文京区駒本小学校教諭,国立教育政策研究所
日本映画の所在調査(映画製作者及び国内外同種機関の協力により,存在が確認できていない昭和20年代から30年代の映画フィルムの所在調査を行う。)	以下の映画作品について,フィルムの残存状況,所在確認をしたうえで購入を行い,原版状態に応じて必要な復元作業を施した。 ・溝口健二監督作品 ・岡本喜八監督作品 ・市川右太衛門主演作品 ・新藤兼人脚本作品 ・水谷浩美術監督作品 ・日活アクション映画 ・日本の歌謡・ミュージカル映画 ・日本の歴史的な撮影監督による作品	
映画文化に関する国際交流(国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)が実施する映画保存等に関する調査研究プロジェクトに参加するとともに,会員間のネットワークを活用して,映画保存及び復元等に関する調査研究を行う。)	・「没後50年 溝口健二国際シンポジウム MIZOGUCHI 2006」におけるシネマテーク・フランセーズからの『東京行進曲』の借用及び本作の復元に関する情報交換 ・「発掘された映画たちin福岡」における作品選定及び基調講演,シンポジウムへの参加。	
新藤兼人に関する調査研究	上映会「シナリオ作家 新藤兼人」を開催。	
古典期フランス映画に関する調査研究	上映会「NFC所蔵外国映画選集 フランス古典映画への誘い」を開催。	
ロシア・ソビエト映画に関する調査研究	上映会「ロシア・ソビエト映画祭」を開催。	
日活アクション映画に関する調査研究	上映会「日本映画史横断 日活アクション映画の世界」を開催。	

オーストラリア映画に関する調査研究	上映会「オーストラリア映画祭」を開催。	
溝口健二に関する調査研究	上映会「没後50年 溝口健二再発見」を開催。	
日本の歌謡映画・ミュージカル映画に関する調査研究	上映会「日本映画史横断 歌謡・ミュージカル映画名作選」を開催。	
日本の撮影監督に関する調査研究	上映会「シリーズ・日本の撮影監督(2)」を開催。	
市川右太衛門に関する調査研究	上映会「CHANBARA 市川右太衛門」を開催。	
水谷浩に関する調査研究	上映会「生誕100周年記念 美術監督 水谷浩 作品選集」を開催。 展覧会「生誕100周年記念 美術監督 水谷浩の仕事」を開催。	
衣笠貞之助に関する調査研究	展覧会「生誕110周年記念 衣笠貞之助の世界」を開催。	
第63回FIAF会議(東京・2007)に関する調査研究	第62回年次会議および運営会議への出席, 第63回会議用ニュースレター(第1号~第3号)の発行	
所蔵映画フィルムの内, 戦前期の日本ニュース映画のデータ分析とカタログ化に関する調査研究	データベース(NFCD)上でのデータの充実と, それに基づく映画フィルムの運用(上映企画, 貸与, 複製利用)および問い合わせへの対応の迅速化と情報提供の充実	
所蔵映画フィルムの内, 日本文化・記録映画のデータ化に対する分析及び調査研究	データベース(NFCD)上でのデータの充実と, それに基づく映画フィルムの運用(上映企画, 貸与, 複製利用)および問い合わせへの対応の迅速化と情報提供の充実	
海外同種機関等との共同企画等に関する調査研究	ドイツ・キネマテーク財団, チリ動画財団等, 海外同種機関や映画祭等へのフィルム貸与16件(58作品)に伴う企画協力。	
「フィルムセンターの仕事と映画の技術」	『映画テレビ技術』(651号・2006年11月号)映画の技術を資料として, 情報として, モノとして残すことの重要性を, フィルムセンターの仕事と関係づけながら論じる。	
「日本映画史の流れ」	中央区民カレッジ「日本映画史への新しい視点」第1回(東京国立近代美術館・中央区の共催, フィルムセンター小ホール, 2006年10月24日)。	
「誰もいないセットに漂う人々の息づかい 丸茂孝氏インタビュー」	『NFCニュースレター』(第70号, 東京国立近代美術館フィルムセンター, 2006年12月)。	
『祇園の姉妹』等 4作品の作品解説	『第5回京都映画祭公式カタログ』(京都映画祭事務局編, 2006年10月)。	

イ 京都国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
フンデルトヴァッサーと建築及び環境芸術の関わりに関する調査研究	「フンデルトヴァッサー展」を開催。同展の図録を刊行。	メルシャン軽井沢美術館

藤田嗣治に関する調査研究	「藤田嗣治展」を開催。同展の図録を刊行。	東京国立近代美術館・広島県立美術館
富本憲吉に関する調査研究	「富本憲吉展」を開催。同展の図録を刊行。	茨城県陶芸美術館，世田谷美術館，岐阜県現代陶芸美術館，山口県立美術館
近代日本美術における江戸絵画の水脈及び海外流出の近世日本画に関する調査研究	「プライスコレクション 若沖と江戸絵画展」を開催。同展の図録を刊行	東京国立博物館，九州国立博物館
都路華香に関する調査研究	「都路華香展」を開催。同展の図録を刊行。	東京国立近代美術館，笠岡市立竹喬美術館
日本画と洋画の表現・技法の影響関係に関する調査研究	「揺らぐ近代 - 日本画と洋画のはざまに」展を開催。同展の図録を刊行。	東京国立近代美術館
アール・デコ・ジュエリー作品に関する調査研究	「アール・デコ・ジュエリーの世界 輝きの詩人シャルル・ジャコー，プシュロン，ラリックらの宝飾デザイン」展を開催。同展の図録を刊行。	東京都庭園美術館
アメリカ近代写真の調査研究	・京都国立近代美術館コレクション写真展 アメリカン・フォトグラファーズ - 19人の写真家の眼 ・京都国立近代美術館コレクション写真展図録	砺波市美術館
福田平八郎に関する調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	
ロシアバレエを例とした総合芸術としての舞台芸術の調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	
シビル・ハイネンの作品における現代テキスタイルアートの彫刻的展開に関する調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	
麻田浩に関する調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	
八木正・文承根を中心として1970～80年代，関西におけるミニマリズムの再検証に関する調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	千葉市立美術館
ザウリとイタリア陶芸に関する調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	東京国立近代美術館
玉村方久斗と昭和初期日本画の新動向に関する調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	神奈川県立近代美術館
ドイツのグラフィックに関する調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	宇都宮美術館
所蔵日本画・洋画作品に関する調査研究	コレクション・ギャラリー展	

ウ 国立西洋美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究	収集，作品・文献調査，常設展・企画展・巡回展企画構成，刊行物，シンポジウム，講演発表，解説等	姫路市立美術館，松本市美術館，パルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局，フィレンツェ特殊美術館監督局，ナポリ特殊美術館監督局
中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究	収集，作品・文献調査，常設展・企画展・巡回展企画構成，刊行物，シンポジウム，講演発表，解説等	ルーヴル美術館，コペンハーゲン国立美術館，オードラップゴー美術館，ニューカールスベア美術館，オーデンセ市立美術館，ヘルシンキ，アテネウム国立美術館，ハノーヴァー，ニーダーザクセン州立

		美術館，ハンブルク美術館，ロンドン，ロイヤル・アカデミー，オスロ・ムンク美術館，パリ日本文化会館，日本学術振興会，姫路市立美術館，松本市美術館，エール大学，フィレンツェ文化監督局長官，ウフィツィ美術館，大英博物館
西洋美術作品の修復に関する調査研究	修復処置の実施，刊行物，シンポジウム・講演発表，解説等	J・ポール・Getty美術館
美術館教育に関する調査研究	「Fun with CollectionいろいろメガネPart 2 - みんなの見かた紹介します」等教育普及プログラムを実施。メンバーシッププログラム・ファンドレイジング制度等調査，ワークシート等制作，インターンシップ，ボランティア指導，解説	東京大学，東京国立博物館，東京都写真美術館，新国立劇場，スミソニアン協会ナショナル・ポートレート・ギャラリー，フィリップス・コレクション，全国美術館会議
館蔵資産の資源化に関する調査研究	美術館アーカイヴズ，コレクション・マネジメント・システム，美術図書館におけるエフェメラの整理，音声映像ガイド	
ロダン・カリエールと19世紀フランス象徴主義に関する調査研究	「ロダンとカリエール」展を開催。同展の図録を刊行，新聞等掲載，講演会等による発表を実施	ロダン美術館，国立美術史研究所，フランス美術館局，オルセー美術館
フランドル絵画及び近代ベルギー絵画に関する調査研究	「ベルギー王立美術館展」を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施	ベルギー王立美術館
イタリア・ルネサンス時代の版画に関する調査研究	「イタリア・ルネサンスの版画」展を開催。同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施	チューリヒ工科大学版画素描館，跡見学園大学
16～17世紀のパルマを中心とした美術の調査研究	「パルマ イタリア美術，もう一つの都」展（平成19年度開催予定）企画構成	バルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局，フィレンツェ特殊美術館監督局，ナポリ特殊美術館監督局，バルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局
19世紀フランスを中心とした「芸術家とアトリエ」の表象に関する調査研究	「芸術家とアトリエ」展を開催	
ブランクウィンに関する調査研究	「フランク・ブラングウィン版画展」を開催。「フランク・ブラングウィン展」（仮称，平成21年開催予定）企画構成	ポーラ美術館，Arents House (Brugge)，The Royal Academy of Arts(London)
「16～17世紀西欧における版画出版と古代の受容」（科学研究費補助金）4年目	研究成果報告書	名古屋芸術大学美術学部，日本橋学館大学
「火山噴火罹災地の文化・自然環境の復元の総括」（科学研究費補助金）3年目	展覧会（平成21年開催予定）企画構成	東京大学大学院，お茶の水女子大学，東京大学史料編纂所，東京工業大学大学院，東京大学地震研究所
「火山噴火罹災遺跡における生活・文化環境の復元研究」（科学研究費補助金）3年目	展覧会（平成21年開催予定）企画構成	東京大学大学院

「国立西洋美術館所蔵作品データベース」(科学研究費補助金)	国立西洋美術館所蔵作品データベース	東京大学情報基盤センター
美術館教育に関する調査研究(客員研究員)	教育普及プログラム企画構成・実施。「ロダンとカリエール」展に関連する音楽プログラムを開催	東京芸術大学
広報事業等に関する指導・助言(客員研究員)	刊行物, Webサイト等(英語版)	
西洋美術作品の保存に関する調査研究(客員研究員)	保存環境管理・調査分析	東京国立博物館

エ 国立国際美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
美術館教育に関する調査研究	ジュニア・セルフガイド作成	
ジグマー・ポルクに関する調査研究	ジグマー・ポルク展図録	上野の森美術館
伊藤存, 今村源並びに須田悦弘に関する調査研究	三つの個展: 伊藤存, 今村源, 須田悦弘図録	
金子潤に関する調査研究	金子潤展図録	岐阜県現代陶芸美術館
小川信治に関する調査研究	小川信治展図録	
国際的な現代絵画の動向に関する調査研究	エッセンシャル・ペインティング図録及び国際シンポジウム	
ピカソに関する調査研究	ピカソの版画と陶芸	
所蔵作品に関する調査研究	大阪コレクションズ図録	大阪市立近代美術館建設準備室及びサントリーミュージアム[天保山]
メディアアートに関する調査研究	客員研究員との共同企画による実験映画の上映及び映像研究会の開催	

オ 国立新美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
20世紀美術における物質文明の影響についての調査研究	「20世紀美術探検」を開催。同展の図録を刊行。美術館ニュース, 新聞での発表。	
現代美術における物質文明の影響についての調査研究	「20世紀美術探検」を開催。同展の図録を刊行。美術館ニュース, 新聞での発表。	
エコール・ド・パリについての調査研究	「異邦人たちのパリ展」を開催。同展の図録を刊行。美術館ニュースでの発表。	ポンピドー・センター
現代フランス美術における多文化主義についての調査研究	「異邦人たちのパリ展」を開催。同展の図録を刊行。美術館ニュースでの発表。	ポンピドー・センター
クロード・モネについての調査研究	展覧会(平成19年度開催予定)企画構成。	オルセー美術館
現代の建築とファッションにおける近似的な表現についての調査研究	展覧会(平成19年度開催予定)企画構成。	ロサンゼルス現代美術館
官展史及び日展史に関する調査研究	展覧会(平成19年度開催予定)企画構成。	宮城県立美術館他
戦後日本の現代美術資料についての調査研究	資料収集・公開	

17世紀 - 19世紀におけるオランダ風俗画についての調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	アムステルダム国立美術館
フェルメールについての調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	アムステルダム国立美術館
横山大観についての調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	横山大観記念館他
モディリアーニとプリミティヴィズムについての調査研究	展覧会（平成19年～20年展度開催予定）企画構成。	国立国際美術館
エミリー・カーム・クンワレエについての調査研究	展覧会（平成20年度開催予定）企画構成。	オーストラリア国立博物館，国立国際美術館
オーストラリアのアボリジニー美術についての調査研究	展覧会（平成20年度開催予定）企画構成。	オーストラリア国立博物館，国立国際美術館
美術館教育に関する調査研究	国立新美術館ガイドブック「アートのとびら」作成	
日本の近現代美術資料に関する調査研究	資料収集・公開	
美術情報の収集・提供システムに関する調査研究	展覧会情報システムへの登載	
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究	美術作品の公開のためのデジタル化	TOPPAN総合研究所他
安斎重男に関する調査研究	展覧会（平成19年度開催予定）企画構成。	

（6）快適な観覧環境の提供

高齢者，身体障害者，外国人等への対応

各館とも次のような対応を実施している。

- ・多目的（障害者用）トイレ，エレベータ（エスカレーター），スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子，ベビーカーの貸出
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬，介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット，ミュージアムカレンダー等の配布
- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の常設展観覧料金を割引
また，国立西洋美術館は，貸出用杖（10本）やホームページに視覚障害者向けの音声案内機能を整備し，国立国際美術館は，貸出用拡大鏡（16個），授乳室・キッズルーム（B1）を，国立新美術館は，授乳室（B1），点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口（インターホン設置）），点字表示（エレベータ内），補聴器等への磁気誘導無線システムを講堂に設置（専用受信機10台），ホワイエ等の館内ディスプレイに展覧会や講演会の情報表示等を行っている。

展示，解説の工夫と音声ガイドの導入

各館とも次のような対応を実施している。

- ・共催展における音声ガイドの導入
- ・館内リーフレット，フロアプラン，ミュージアムカレンダー等の配布
また，東京国立近代美術館は，本館常設展の音声ガイドの平成19年度導入に向け，作品選定，作品解説の作成及び音声ガイド機器の選定を行った。
国立西洋美術館は，「ジュニア・パスポート」の配布，常設展展示作品の解説を掲載した

リーフレットの販売（「松方コレクションリーフレット」価格：100円）、「ウェル.com美術館プロジェクト」の立ち上げ、音声映像ガイド・オンデマンド印刷実験（春・秋）を実施した。

国立国際美術館は、作品紹介キャプションを縦型に拡大し、活字をより見易くした。

国立新美術館は、「20世紀美術探検 - アーティストたちの三つの冒険物語」展鑑賞ガイドブック「アートのとびら」（日英併記）の配布を行った。

入場料金、開館時間等の弾力化

文化の日（11月3日）及び国際博物館の日（5月18日）の観覧料の無料化を実施するとともに、開館時間等については、夜間開館の実施、年始やゴールデンウィーク等休館日の臨時開館を実施した。

なお、各館における取組みは以下のとおりである。

東京国立近代美術館は、本館・工芸館の所蔵作品展及びフィルムセンターの展示室を何度でも観覧できるMOMATパスポートの発売を開始（1年間有効）した。また、藤田嗣治展では、多数の入館者に対応するため、金曜日に加え木・土曜日にも夜間開館を実施し、年始は1月2日（「美術館へ行こう～A Day in the Museum」の実施）から開館した。

フィルムセンターは、企画ごとに上映回数を増加している。全会期1日3回の上映を行ったのは、企画上映「シナリオ作家 新藤兼人」、共催上映「第7回東京フィルムメックス 特集上映 岡本喜八 日本映画のダンディズム」、土・日・祝日のみ3回上映したのは、企画上映「日本映画史横断 日活アクション映画の世界」、共催上映「ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN ロシア・ソビエト映画祭」、企画上映「没後50年 溝口健二再発見」である。

京都国立近代美術館は、京都市駐車場公社との連携により駐車場料金を割引するとともに、「みやこめっせ10周年（きもの、ゆかた着用）」、「関西文化の日」に参加し、コレクション・ギャラリーの無料観覧日を実施した。

国立西洋美術館は、春の企画展の初日から秋の企画展最終日まで午後5時の閉館時間を5時30分まで延長し、8月のお盆期間中の休館日を臨時開館、年始は1月2日（「美術館へ行こう～A Day in the Museum」の実施）から開館した。さらに、常設展の毎月第2、第4土曜日の無料観覧日の実施、自主企画展「イタリア・ルネサンスの版画 チューリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による」で前売券を販売、クレジットカードによる観覧券販売の実施、共催展では有効期限付きの無料観覧券を発行し混雑を緩和、本館1階（常設展出口付近）に展覧会の図録等を閲覧できる資料コーナーには、ル・コルビュジエ設計の建物との一体感を図るため、同建築家のオリジナル作品を復刻した椅子等の什器を設置、前庭・本館1階のレストラン、ミュージアムショップ、資料コーナーがあるスペースはフリーゾーンとして無料開放、「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」で、前庭のイルミネーション装飾、クリスマスツリーの設置と開館時間の延長を実施（期間：平成18年12月1日～平成19年1月8日。ただし、12月28日～1月1日を除く）した。

国立国際美術館は、「関西文化の日」に無料観覧日を実施、特別展・共催展開催期間中の金曜日の閉館時間を午後7時まで延長した。

国立新美術館は、「黒川紀章展」及び「文化庁メディア芸術祭10周年記念展」の観覧料を共催者の協力により無料とするとともに、ホームページ、チラシ、携帯QRコード、ポストカード、同時期開催企画展のチケット同時購入割引等を実施した。

また、開館記念展中の平成19年1月23日の休館日を開館した。その他の入館者サービスとして、「20世紀美術探検」初日に記念品プレゼント（300人）、「異邦人たちのパリ」

日時指定券，先行ペア券の発売，「異邦人（エトランジェ）たちのパリ」を後援した東京日仏学院との連携による「初心者のためのフランス語講座」の実施（3月4日と11日に計5回），「黒川紀章展」キーワードライブの実施（13回），「文化庁メディア芸術祭10周年企画展」屋外展示場にて，ランドウォーカー（搭乗型2足歩行ロボット）の展示・実演（実演日数：4日間），同展展示室内に特設シアターを設け，歴代受賞作品等を上映（59回），同展ライブ等イベントの実施（3日間），団体バスの受入（118団体/133台/4,505人）を行った。

キャンパスメンバーズ制度の実施

平成18年12月より，国立美術館5館の事業として，大学，短期大学，高等専門学校，専修学校等の学校を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」を発足，メンバーの募集を開始した。

本制度はメンバーとなった学校等の学生や教職員に，常設展の無料観覧，企画展の割引観覧等の特典を付与することで，学校教育における美術館の有効活用を促進すること，学生や教職員の美術に親しむ機会をより豊かにすることを目的とした制度である。

ミュージアムショップ，レストラン等の充実

ミュージアムショップについては，所蔵作品に関連する書籍等に加え，東京国立近代美術館工芸館の「ジュエリーの今：変貌のオブジェ」展出品作家の作品など，展覧会に関連した商品を販売するとともに，国立西洋美術館の「睡蓮」「陽を浴びるポプラ並木」のジャカードタオルや，国立新美術館のシンボルマークを使った商品など，オリジナルグッズの開発に努めた。

また，レストランについては，季節や展覧会に応じたメニューを用意するとともに，美術館の閉館後も営業を行うなど，入館者サービスの向上に努めた。

（7）国立新美術館の開館

当館の開館に向け，主に竣工から開館までの間，以下の準備，活動等を実施した。

平成18年	5月31日	竣工（文化庁，文部科学省）
	6月14日	竣工式（文化庁）
	7月1日	機関設置，林田英樹館長就任
	7月4日	館長就任記者会見及び開館日の公表等
	8～11月	公募団体見学会の開催
	9月13日	評議員会（平成18年度第1回）開催
	9月14日	開館記念展他展覧会記者会見
	9月15日	建物御披露目会開催
	9月29～30日	日豪アート交流フォーラム開催
10月13・15・19・21日		建築ツアー実施
	10月26～27日	建築ツアー抽選もれ対象者建物見学会開催
	11月30日	オペラコンサート2006開催
	12月8日	モネ展記者会見
	12月16日	色で結ぶ美術と科学 公開シンポジウム開催
	12月24日	クリスマス混声合唱コンサート開催
平成19年	1月20日	開館式典，開館記念展内覧会の開催
	1月21日	開館オープニングセレモニー実施

また、広報活動の一環として、自動車新車発表会への会場貸出（有料）、雑誌等のスチール撮影許可（有料）や多数の取材、記事掲載への対応、各種団体からの建物視察・見学対応、周知ポスター等の印刷物の作成・配布、ホームページのリニューアルなど、館の周知活動に努めた。

このほか、レストラン、ミュージアムショップの業者の選定や施設管理・受付・ライブラリーなどの業務委託の実施と、企画面を補助する事務・研究補佐員の採用による体制整備など開館準備に努めた。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 美術作品の収集

館名	購入点数	購入金額 (千円)	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館本館	64	186,250	72	9,490	231
東京国立近代美術館工芸館	13	9,920	39	2,593	128
京都国立近代美術館	126	187,060	328	8,628	2,066
国立西洋美術館	64	187,298	2	4,498	13
国立国際美術館	51	191,845	363	5,753	79
計	318	762,373	804	30,962	2,517

フィルムセンター

摘要	購入本数	購入金額 (千円)	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託品本数
映画フィルム	406	265,056	1,611	48,475	7,048

収集作品の特徴

ア 東京国立近代美術館

【本館】

平成18年度は、1950年代の欧米の代表的作品、戦前の日本の洋画のさらなる充実、メディアアートを含む種々の媒体による中堅作家の作品の3点に重点を置いた収集に努め、近代日本美術史の通史的展観を充実させる、全体としてバランスのとれた収集を行うことができた。

については、数年間にわたる調査と交渉の結果、ジャン・デュビュッフェの中期の代表的作品とジョゼフ・コーネルの50年代の優品を購入した。デュビュッフェについては、本部に留保された予算により購入が可能になったものである。

については、藤田嗣治展の出品作から極めて希少な1930年代のブラジル滞在時の代表的作品を購入した。永年かけて築いた遺族との信頼関係の結果と言える。同様に須田国太郎の遺族から3点の寄贈を受け、須田作品のコレクションに厚みを加えることができた。

については、ビデオ映像を用いた塩田千春の作品を購入するとともに、伝統的な日本画の新たな展開を模索する岡村桂三郎、油彩画の新たな可能性を探る活動を続ける小林正人、児玉靖枝らの作品を収蔵し、全体としてバランスのとれた収集活動を行うことができた。写真作品については田村彰英の初期の代表作、阪神淡路の震災を題材とした宮本隆司の近作ほか、日本の写真史を通観するための作品をコレクションに加えた。

【工芸館】

近代工芸全般の歴史的な常設展が可能となることを目指しつつ、特に、戦後の伝統工芸の代表作、中堅作家の代表作などに重点を置いた作品の収集に努めた。

については、陶芸の岡部嶺男、三輪壽雪、伊勢崎淳、染織の細見華岳らの秀作を収集した。また、石黒宗麿の資料的な価値の高いものを含む作品25点が一括して寄贈されたことにより、コレクションが一層充実した。

については、陶芸の川口淳や三輪和彦、ガラスの石井康治や高橋禎彦、漆芸の黒澤千春、人形の友永詔三、ジュエリーの山田禮子等、各分野についてバランスのとれた収集ができた。

【フィルムセンター】

映画製作会社に要請している原版の寄贈について、株式会社ワールド映画社等からの手続を完了し、映画史的に貴重なフィルムの寄贈受入により、コレクションに厚みを加えた。また、可燃性フィルムの寄贈受入により、これまで残存が確認されていなかった作品の原版を収蔵した(寄

贈された作品418本のうち、91本)。

購入については、プラネット映画資料図書館等が所有する可燃性原版から、不燃化したデューブネガ及びポジプリントを購入した。また、企画上映等のために、未収集のポジプリントやデューブネガを購入したほか、東京フィルムメックス実行委員会との共催上映のために英語字幕付フィルムを購入し、国際交流事業にも活用した。

イ 京都国立近代美術館

近代洋画・日本画の優品を購入し、また、須田国太郎の重要作品の寄贈を受け、関西の近代洋画を通観する上で、核の一つを確立することができた。立ち後れている現代美術の分野で、有望な若手作家・高嶺格の重要作品「Baby Insa-dong」を購入した。また、世界的版画家・故池田満寿夫の私蔵コレクションの一部の寄贈を受けたが、これは平成19年度に最終的に約900点からなる池田満寿夫全版画コレクションの形成を目指す第一歩となるものである。上野伊三郎・上野リッチ作品資料の寄贈を受けることができ、日本近代建築及びデザイン教育に関する基礎資料を構築することができた。

ウ 国立西洋美術館

購入絵画作品のうち、レンブラントに学んだホーファールト・フリックによる初期の物語画は、レンブラントによる受難伝連作との関連が認められる貴重な作例であり、未だレンブラントを収蔵していない当館のオランダ絵画コレクションの重要な位置を占めることとなった。

ジャン＝ヴィクトール・ベルタンによる風景画2点は、すでに収蔵されているロベール、ヴェルネら18世紀後半の古典主義的風景画と、コローなど19世紀の自然主義的風景画との間に位置するもので、今回の購入により18世紀後半から19世紀前半にかけてのフランス風景画の系譜を辿る展示が可能になった。

デンマークの画家ペーター・イルステッドによる一連の作品の収集は、フランス及びイギリスを主とする当館の近代美術コレクションの領域を広げた。

エ 国立国際美術館

戦後ヨーロッパを代表するヴォルスの絵画をはじめ、90年代以降活躍著しいベルギーの画家リュック・タイマンズの最近作やイタリアのアルテ・ポーヴェラを代表する彫刻家ジュゼッペ・ペノーネの彫刻等海外の重要な美術動向を把握したほか、宮本隆司の写真、今村源と須田悦弘の斬新な彫刻など日本の現代美術の動向を反映した作品を収集し、当館の収蔵作品の欠落部分を補うことができた。

また、イギリスの彫刻家ヘンリー・ムアの多数の版画作品及び作家・横尾忠則からの多数のポスターの継続的な寄贈を受けた。

(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等

収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 東京国立近代美術館

本館、工芸館、フィルムセンターの収蔵スペース確保のため、フィルムセンター相模原分館の保有地等の拡充の検討を行うとともに、キャンプ淵野辺跡地の利用希望について相模原市に対し要望書を提出した。

本館では、版画作品の収納棚新設等により、限られた収納スペースのより効率的な活用を図った。

工芸館は、所蔵作品の増加や大型化、企画展開催のための借用作品の増加等により、収蔵

庫の狭隘化が年々増してきているが、各収蔵室の壁面や床面のスペースを効率的に用いることで対処した。

イ 京都国立近代美術館

展示及び貸出によって空いた収蔵スペースに他の作品を収蔵する等の工夫を行ったが、収蔵庫のラック増設を行うことができず、対応に苦慮した。

ウ 国立西洋美術館

館内に新館空調設備改修工事委員会及びワーキンググループを組織し、新館展示室、収蔵庫及び関係室の環境整備に関して検討した。

保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

保存環境の整備については、各館において、美術作品等の種類、保管場所等の状況に応じて温湿度や照明等を適正に管理し、作品の劣化を最小限に止めるよう努めた。

また、防災対策の推進・充実については、各館とも緊急時対応の防災マニュアル（地震、火災、停電）の整備・見直し、監視モニター及び警備員による定期巡回等、必要に応じた改善を行った。

なお、国立西洋美術館では、彫刻作品の展示における防災対策として、平成17年度から開発実験を始めた彫刻展示台の「免震滑り板」に関する追加実験、総括及び特許申請を行った。この装置については特許を取得し、他館に無償供用を行うことを想定している。また、彫刻の展示方法をより安全にするため、彫刻を台座に取付ける方法を改善し、剛性を高めることにより、彫刻及び台座が免震滑り板の動きと確実に連動するようにした。以上の結果を踏まえて、ロダン彫刻作品8点のための免震滑り板付き台座を新調した。

(3) 所蔵作品の修理・修復

各館及び外部の専門家等との連携・協力により、所蔵作品の体系的な状態確認に着手し、その過程で、最新の専門的知見と経験から多くを得ることができ、作品の保存状況を把握することができた。なお、紙を支持体とする版画や素描について、緊急度の高い作品から適切な処置を施して修復を行った。

また、長年の展示等により、緊急に現状保存修復の検討を要する作品が多い分野については、東京藝術大学美術学部金工科、目白漆芸文化財研究所、「染織の加納」の専門家等と修理・修復の方針について検討を行った。

なお、各館における所蔵作品の修理・修復の実施状況は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

日本画8件、洋画22件、水彩・素描13件、版画1件、彫刻4件、写真21件、金工1件、映画フィルムデジタル復元1作品、不燃化作業96本、映画フィルム洗浄4作品

イ 京都国立近代美術館

日本画・洋画4件、素描6件

ウ 国立西洋美術館

絵画2件、彫刻8件

エ 国立国際美術館

洋画6件、水彩・素描7件、彫刻1件、版画17件

(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究

各館における調査研究の実施状況は、以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

【本館】

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・科学研究費補助金「戦後の日本における芸術とテクノロジー」（神奈川県立近代美術館，筑波大学との共同研究）
- ・メディアアートの収集と展示についての基本方針の検討（ニューヨーク近代美術館等との共同研究）

(イ) 保管・修理に関する調査研究

- ・日本画作品の虫害についての調査（東京文化財研究所との共同調査）
- ・日本画作品に用いられた銀箔の変質に関する調査（東京文化財研究所との共同調査）

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・虫害についての研究の結果，簡易脱酸素処理システムを導入し，日常の作品保守業務に活用した。
- ・メディアアートについての収集方針の研究を今年度の作品収集活動に反映させた。

【工芸館】

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・染織の稲垣稔次郎作品について，専門技術者と調査研究を行い，保存修復計画を策定した。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

- ・漆芸古美術資料及び松田権六作品の調査研究（石川県立美術館や MOA 美術館，東京国立博物館，東京大学考古学研究室，目白漆芸文化財研究所との共同研究）

【フィルムセンター】

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・新藤兼人脚本作品に関する調査研究
- ・フランス古典映画に関する調査研究
- ・ロシア・ソビエト映画に関する調査研究
- ・日活アクション映画に関する調査研究
- ・オーストラリア関連映画に関する調査研究
- ・溝口健二監督作品に関する調査研究
- ・岡本喜八監督作品に関する調査研究
- ・日本の歌謡・ミュージカル映画に関する調査研究
- ・日本の歴史的な撮影監督に関する調査研究
- ・水谷浩美術監督作品に関する調査研究
- ・市川右太衛門主演作品に関する調査研究

(イ) 保管・修理に関する調査研究

国内外の博物館・美術館及び大学等の機関と連携した調査研究を以下のとおり実施した。

- ・フィルムの目縮みの復元に関する研究
- ・デジタル技術を用いた映画フィルムの修復に関する調査研究
- ・可燃性フィルムの保存・修復・国際輸送に関する調査研究
- ・小型映画の収集・保存に関する調査研究

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・フィルムセンターにおける上映企画に反映された。
- ・劣化フィルムの復元作業に反映された。
- ・デジタル復元作業に反映された。

- ・可燃性フィルムの保存環境及び国外から可燃性フィルムを輸送する際に反映された。
- ・小型映画の適正な保存・カタログング方法について検討する際に反映された。

イ 京都国立近代美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・同志社大学と協力し、新しい視点での所蔵作品研究及び再構成の可能性を研究した。
- ・京都工芸繊維大学の協力の下に上野伊三郎・上野リッチ作品資料の研究に着手し、日本近代建築史とデザイン教育史の再検証を開始した。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

- ・写真の保存・管理の専門家を客員研究員として採用し、写真作品の保管・管理態勢の再構築を開始した。平成18年度は東京都写真美術館の実情を調査し、現場活動に即した貴重な情報と示唆を得ることができた。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・同志社大学と共同し、新しい視点による所蔵作品の研究と再構成の可能性を、コレクション・ギャラリーの展示として実現した。
- ・日本画の修復保存に関するワークショップを開催し、専門家のみならず一般美術愛好家にもこの分野の重要性を訴える活動を行った。

ウ 国立西洋美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・所蔵絵画作品、ヴァザーリ《ゲッセマネの祈り》の来歴に関する調査研究（フィレンツェ特殊美術館監督局との連携）
- ・所蔵絵画作品、グエルチーノ《ゴリアテの頭をもつダヴィデ》の来歴に関する調査研究（パルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局、フィレンツェ特殊美術館監督局との連携）
- ・所蔵絵画作品、イタリア派《ヴィーナスとクピド》の作者及び来歴に関する調査研究（パルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局との連携）
- ・所蔵ロダン作品及びカリエール絵画作品に関する調査研究（フランス美術館局、オルセー美術館、ロダン美術館との連携）
- ・所蔵イタリア・ルネサンス版画に関する調査研究（チューリヒ工科大学版画素描館との連携）
- ・長期貸与作品、ブランギン版画に関する調査研究（東京国立博物館との連携）
- ・寄託絵画作品、ムンク《坑夫たち》に関する調査研究（オスロ市立ムンク美術館との連携）

(イ) 保存・修復に関する調査研究

- ・「《地獄の門》免震化」（J・ポール・ゲッティ美術館主催国際シンポジウムにおける招待発表）

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・所蔵絵画作品、ヴァザーリ《ゲッセマネの祈り》の来歴に関する調査研究：研究紀要第11号掲載
- ・所蔵絵画作品、イタリア派《ヴィーナスとクピド》の作者及び来歴に関する調査研究：来年度企画展「パルマ イタリア美術、もう一つの都」展示公開及びカタログ掲載
- ・所蔵ロダン作品及びカリエール絵画作品に関する調査研究：企画展「ロダンとカリエール」（当館開催後オルセー美術館に巡回）展示公開及びカタログ掲載
- ・所蔵イタリア・ルネサンス版画に関する調査研究：企画展「イタリア・ルネサンスの版画」

展示公開及びカタログ掲載

- ・平成14 - 18年度前期新収蔵版画作品に関する調査研究：「平成14 - 18年度新収蔵版画作品展」展示公開
- ・長期貸与作品，ブラングィン版画に関する調査研究：版画作品展「フランク・ブラングィン版画展」展示公開及びリーフレット
- ・寄託絵画作品，ムンク《坑夫たち》に関する調査研究：来年度企画展「ムンク展」展示公開及びカタログ掲載
- ・免震滑り板付き彫刻台に関する調査研究：常設展ロダン作品展示公開

エ 国立国際美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・コレクションの在り方の詳細な総合比較を実施（連携機関：大阪市立近代美術館建設準備室，サントリーミュージアム〔天保山〕）

(イ) 保管・修理に関する調査研究

- ・保管・修理に関する調査研究を実施（連携機関：大阪市立近代美術館建設準備室，サントリーミュージアム〔天保山〕）

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・コレクションの在り方を詳細に総合比較するとともに保管・修理に関する調査研究を実施したことにより、「夢の美術館：大阪コレクションズ」を開催した。（連携機関：大阪市立近代美術館建設準備室，サントリーミュージアム〔天保山〕）

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信

研究紀要，学術雑誌，展覧会刊行物，学会等での発信

ア 館の刊行物による研究成果の発信

各館において，展覧会図録（計31冊），研究紀要（計2冊），館ニュース（計6種，29冊発行），所蔵品目録（計3冊）等の刊行物により，研究成果を発信した。

館名	展覧会図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他
東京国立近代美術館本館	7	1	6	1	6	1
東京国立近代美術館工芸館	5			0	2	2
東京国立近代美術館フィルムセンター	1			6	0	1
京都国立近代美術館	7	0	5	0	0	0
国立西洋美術館	3	1	4	0	4	0
国立国際美術館	6	0	6	2	3	0
国立新美術館	2	0	2	0	1	0
計	31	2	29	3	17	13

注1 「パンフレット・ガイド等」には，小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット，子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

注2 「その他」には，科学研究費補助金研究成果報告書（東近美本館），鑑賞教育プログラム事例報告集（工芸館），NFCカレンダー（フィルムセンター）等が含まれる。

イ 館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

A 東洋陶磁学会東日本研究会

・平成18年9月2日 東京国立博物館資料館セミナー室

発表：「イギリスの現代工芸（在外研修報告）」唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）

「富本憲吉の初期色絵作品と大原孫三郎の後援について」三上美和（東京国立近代美術館工芸課客員研究員）

聴講者数：32名

B 平成19年3月18日 東京国立近代美術館講堂

発表：「岡部嶺男の陶芸」唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）

「初期ルネサンスの舗床タイル」宮永郁恵（東京国立近代美術館工芸課インターン）

聴講者数：72名

(イ) 国立西洋美術館

A 論文

・「複製版画と批評 -ジュリオ・サヌート《アポロとマルシュアス》の場合-」，『西洋美術研究』No.12，pp.213-224

・「国立西洋美術館におけるコレクション・マネジメント・システムの構築」『アート・ドキュメンテーション研究』Vol.14（2007年3月）

B 学会等での発表

・Getty国際シンポジウム “Seismic Isolation of The Gate of Hell”

Colloquium, Seismic Mitigation for Museum collections, 2006

J. Paul Getty Center, Los Angeles

- ・アート・ドキュメンテーション学会年次大会口頭発表(2006年4月)
- (ウ) 国立国際美術館
 - ・「美術と文化」- 美術館・博物館の連携と異文化交流 -
 - ・日本のアンフォルメルについて
 - ・ポーランドの現代美術 - ミロスワフ・パウカを中心に

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 京都国立近代美術館

- ・「揺らぐ近代」展に関連した電子メール討論会の開催。
- ・コレクション・ギャラリー小企画展にあわせ、小論文の形で公表

(イ) 国立西洋美術館

平成19年7月から更新予定のホームページに、当館の美術作品データ及び年報を掲載するための準備を行った。

(ウ) 国立新美術館

美術情報の収集・提供に関する調査研究を通じ、インターネットによる展覧会情報システム「アート commons」を開設し、国内美術館等の展覧会情報を提供開始。

所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館

【本館・工芸館】

(ア) 「漆芸界の巨匠 人間国宝 松田権六の世界」展シンポジウム

日時：平成19年1月20日(土) 午後2時～午後4時

内容：基調講演及びパネリストによる討議(主任研究員 諸山正則)

聴講者数：163名

(イ) 「漆芸界の巨匠 人間国宝 松田権六の世界」展研究会

日時：平成19年1月22日(月) 午後2時～午後4時30分

内容：「松田芸術の源泉と構成部分」(工芸課長 金子賢治)、「松田権六の制作と古典」(研修員 北村仁美)他による研究発表。

聴講者数：72名

(ウ) 漆芸界の巨匠 人間国宝 松田権六の世界」展 研究会

日時：平成19年2月19日(月) 午後2時～午後4時

内容：松田権六作品特別観覧及び作品解説。

参加者数：20名

【フィルムセンター】

「没後50年 溝口健二国際シンポジウム MIZOGUCHI 2006」

共催：朝日新聞社、国際交流基金、角川ヘラルド映画

日時：平成18年8月24日(木) 午後12時～午後8時30分

場所：有楽町朝日ホール

聴講者数：650名

イ 京都国立近代美術館

(ア) 「パリ・1920年代・藤田嗣治」(国際シンポジウム)

日時：平成18年6月10日(土)

- (イ) 「富本憲吉と戦前ポスター・1930年代日本の基層文化 - 試みとしての 伝統
日時：平成18年8月19日(土)
講師：館長 岩城見一，主任研究員 松原龍一
- (ウ) 揺らぐ近代日本画と洋画のはざまに
日時：平成19年2月25日(日)
講師：館長 岩城見一，主任研究員 山野英嗣

ウ 国立西洋美術館

美術史学会東支部例会(担当：主任研究員 田中正之)

日時：平成19年3月24日(土) 於：国立西洋美術館 講堂

招待研究発表「オーガスタス・ウォラストン・フランク，アーネスト・メイソン・サトウ
と蜷川式胤 英国大英博物館のための日本焼物の蒐集(1875～1880年)」
(セインズベリー日本芸術研究所 ニコル・クーリッジ・ルマニエール)

エ 国立国際美術館

(ア) 館長と語る

日時：平成19年2月24日(土) 99人

講師：館長 建畠哲

(イ) 「夢の美術館 大阪コレクションズ」特別セミナー

日時：平成19年3月21日(水) 24人

講師：菅谷富夫(大阪市立近代美術館設立準備室学芸員)，島学芸課長

(2) 国内外の美術館等との連携

シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 東京国立近代美術館

【本館・工芸館】

近・現代美術史の展望や見直しに関わるテーマのもとに開催される企画展において，館外の研究者や学会等と連携してシンポジウム等を開催することにより，調査研究の進展及び討議の場の設定に寄与するよう努めた。なお，その際は一般の美術愛好家にも開かれたものであることを目指した。

工芸館では，世界における日本工芸の独自性を捉えるため，国内外の美術館等の研究者とさまざまな角度から交流を図った。その成果は学会，研究会で発表し，世界と日本の工芸研究の進展に寄与するよう努めるとともに，日英の共同展覧会の計画推進に役立てた。

(ア) 「揺らぐ近代：日本画と洋画のはざまに」展 公開討論会 後援：明治美術学会
「日本画と洋画のはざまに，なにがあったのか」

日時：平成18年12月2日(土) 午後2時～4時

場所：本館講堂

パネリスト：児島薫(実践女子大学)，佐藤道信(東京藝術大学)，田中正史(小杉放庵記念日光美術館)，古田亮(司会，東京藝術大学・当館客員研究員)

聴講者数：171名

(イ) 「わざの美；伝統工芸50年」に関して，大英博物館担当者と研究会を実施。

第1回：ティモシー・クラーク(大英博物館日本美術担当)

テーマ：日本の現代工芸とヨーロッパ現代工芸の現状について

日 時：平成 18 年 10 月 11 日

第 2 回：ニコル・クーリッジ・ルマニエール(セインズベリー日本藝術研究所長，大英博物館「わざの美；伝統工芸 50 年」担当ゲスト・キュレーター，東京大学客員教授として日本滞在中)

テーマ：日本の「工芸」とヨーロッパの「craft」の歴史と概念の共通性と違いについて

日 時：平成 19 年 3 月 26 日

(ウ)「ジュエリーの今：変貌のオブジェ」展 講演会

「A Sense of Place」

日時：平成 18 年 11 月 18 日(土) 午後 3 時 30 分～午後 4 時

場所：工芸館展示室

講師：サイモン・フレーザー

(Central Saint Martins College of Art & Design ジュエリーコース担当主任)

聴講者数：65 名

【フィルムセンター】

我が国唯一の国立フィルム・アーカイブとして，また，映画文化の普及・振興の拠点として，シンポジウム，講演会等の開催を通じて，国内外フィルム・アーカイブや同種研究機関等の研究者との連携を推進した。

(ア)国内外の優れた研究者を招聘，シンポジウム等を開催(再掲)

「没後 50 年 溝口健二国際シンポジウム MIZOGUCHI 2006」

共催：朝日新聞社，国際交流基金，角川ヘラルド映画

日時：平成 18 年 8 月 24 日(木) 午後 12 時～午後 8 時 30 分

場所：有楽町朝日ホール

監修：蓮實重彦(映画評論家)，山根貞男(映画評論家)

講師等：セッション 1 阿部和重(小説家)，井口奈己(監督)，柳町光男(監督)，

山崎貴(監督)/セッション 2 香川京子(女優)，若尾文子(女優)/セッ

ション 3 田中徳三(監督)/セッション 4 ヴィクトル・エリセ(監督)，ジャン・

ドゥーシェ(映画評論家)

聴講者数：650 名

(イ)「日豪交流年 2006 オーストラリア映画祭」第 1 回 講演会

日時：平成 18 年 10 月 7 日(土) 午後 2 時～午後 4 時

場所：フィルムセンター小ホール(地下 1 階)

講師：クエンティン・ターナー(映画史家)

聴講者数：65 人

(ウ)「日豪交流年 2006 オーストラリア映画祭」第 2 回 講演会

日時：平成 18 年 10 月 14 日(土) 午後 2 時～午後 4 時

場所：フィルムセンター小ホール(地下 1 階)

講師：エイドリアン・マーティン(映画史家)

聴講者数：63 人

イ 京都国立近代美術館

海外の優れた研究者による講演会等を開催し，美術館活動に対する示唆が得られるよう努めるとともに人的ネットワークの構築を推進した。

(ア)「三つのアジア・ピエンナーレ：シンガポール，上海，光州」

講師：シドニー大学 教授 ジョン・クラーク

(イ)「身体と風景 - 大地と空の間」

講師：リール大学 助教授 カトリーヌ・グルー

(ウ)「醜と排除の感性論」(3回)

講師：関西大学文学部助教授 若林 雅哉，関西大学文学部非常勤講師 石田美紀/京都大学大学院人間・環境学研究科教授 篠原資明/神戸大学大学院人文学研究科助教授 前川修/京都精華大学デザイン学部専任講師 佐藤守弘/神戸大学大学院人文学研究科教授 長野順子

ウ 国立西洋美術館

国内唯一の西洋美術専門の国立美術館として，日本における西洋美術研究のセンター的役割を果たすべく，国内外の美術館等の研究機関及び研究者との連携を図り，人的ネットワークの構築に寄与した。

・美術史学会東支部例会(再掲)

(平成19年3月24日(土) 於：国立西洋美術館講堂，担当：主任研究員 田中正之)

エ 国立国際美術館

開催中の展覧会や所蔵作品についての理解を深めるために，優れた研究者を招聘し，講演会等を行った。

・「椰子とジャガイモ：ジグマー・ポルケの世界」(4月29日)

・「キッチュの復権から流動的視覚体験へ：90年代 - 00年代具象絵画の変貌」(12月17日)

オ 国立新美術館

(ア)日豪アートフォーラム

A 日豪美術関係者会議(非公開)平成18年9月29日～30日(34名)

B 日豪アート交流シンポジウム『オーストラリアと日本 - 美術の現在と未来』

平成18年9月30日(147人)

(主催)国立新美術館，アジアリンク，豪日交流基金，オーストラリア大使館

(協力)独立行政法人国際交流基金

(イ)「色で結ぶ美術と科学 - 公開シンポジウム」平成18年12月16日(136人)

(主催)国立新美術館，日本色彩学会関東支部

我が国の作家，美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 東京国立近代美術館

【本館】

我が国の作家や美術作品を，展覧会等を通じて海外に紹介するためには，何よりも海外の研究者や関係機関と日常的な交流の実績を積み重ね，近・現代美術に関するテーマや問題意識を共有することが必要であり，あらゆる機会を捉えて，連携・協力の推進に努めた。

国際交流基金主催，東京国立近代美術館・韓国国立現代美術館・シンガポール美術館協力により，平成19年5月16日から7月7日までパリの日本文化会館で開催予定の「アジアのキュビズム」展に向けて，両館と連携しながら，立案・作品調査・選定等を行った。

【工芸館】

日本の優れた伝統を継承しその芸術を今日に発展させてきた工芸作家及びその作品を広く海外へ紹介する活動を重視し，海外展開に向けて準備を進めた。

英国の大英博物館，東京国立近代美術館，京都国立近代美術館，社団法人日本工芸会，及び

国際交流基金の主催により、平成 19 年 7 から 10 月に大英博物館で開催される「わざの美：伝統工芸の 50 年」展で、伝統工芸作家 111 人による代表作品 112 点を紹介する。当館は、大英博物館やこの事業をサポートするセインズベリー日本藝術研究所と密接に連絡をとり、他の共催者及び協力の文化庁、各所蔵家と連携して準備を進めた。

【フィルムセンター】

ドイツ・キネマテーク財団主催による「第 57 回ベルリン国際映画祭 岡本喜八回顧展」や、チリ動画財団主催による「第 5 回ラ・セレナ国際無声映画祭」など、海外の上映会や映画祭等 16 件に、フィルムセンター所蔵作品計 58 作品を出品し、日本映画の紹介に努めた。

イ 京都国立近代美術館

近代日本画の歴史に大きな足跡を残しながら忘れられていた都路華香の正当な再評価を目指した「都路華香展」で、シアトル美術館が所蔵する作品・資料が貴重な役割を果たした。当館とシアトル美術館が協力した調査の過程で、アメリカ側にも都路華香に対する再評価の機運が高まった。

ウ 国立西洋美術館

国内唯一の西洋美術専門の国立美術館として、我が国における西洋美術研究のセンター的役割を果たすべく、国内外の美術館等の研究機関及び研究者との連携を図り、人的ネットワークの構築に寄与した。

- (ア)「ロダンとカリエール」展におけるフランス美術館局、オルセー美術館、ロダン美術館との共同研究及びオルセー美術館への巡回に伴う連携
- (イ)「ベルギー王立美術館展」及び「イタリア・ルネサンス版画展」における各所蔵館（ベルギー王立美術館、チューリヒ工科大学版画素描館）学芸職員との共同研究
- (ウ)エール大学教授ティム・バリンジャー氏による講演会の開催

エ 国立国際美術館

平成 20 年度、小川信治展開催に向け準備を進めた（ポーランド：ブンキエーシトゥッキ）。

(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

ア 東京国立近代美術館

国内外の美術館などの研究機関と情報交換を図りながら、修復・保存活動を充実させることを目指し、次のような活動を行った。本館では、東京文化財研究所及び福岡市美術館と虫害予防についての情報交換を行った。

工芸館では、工芸各素材の特色ある保存・修理について関係機関と連携し、緊急性を要する漆芸、染織品の所蔵作品の現状について精査し、修理方針を作成した。

フィルムセンターでは、国際フィルム・アーカイブ連盟の加盟機関等との連携によって、フィルムの所在情報、適正な保存方法や復元技術に関する情報交換を行った。

イ 京都国立近代美術館

- ・膨大となってきた素描、写真、版画などの美術作品及び美術資料の系統的な再分類・整理と、研究者等への外部公開に向けての態勢の整備を図るとともに、先行他館の施設と経験を調査し、当館に適したシステム構築を目指し、次のような活動を行った。
- ・写真の保存整理の専門家を客員研究員として採用し、東京都写真美術館などの先行館や外部研究者への調査を行った上で、写真作品保存・整理・公開システムの再構築を開始した。

ウ 国立西洋美術館

保存・修復に関し国内外の美術館との情報交換の推進を図るため、次のような活動を行った。

- ・ J・ポール・Getty美術館主催国際シンポジウムにおいて「《地獄の門》免震化」に関する招待発表を行った。
- ・ シュトゥットガルト州立美術館への作品貸与を機会に、同館への作品貸与期間中の温湿度記録とその分析結果報告書を提供し、保存環境改善に関する提言を行った。
- ・ 国内外美術館への作品貸与、使用許可及び来年度巡回展の準備に当たり、関係する美術館のファシリティ・レポート（施設概要）を審査し、保存環境管理のための要請、提言等を行った。

エ 国立国際美術館

国内外の美術館における保存・修復の現状について、相互の情報交換を図り、同一作家や関連作品についての修復活動の充実を目指し、次のような活動を行った。

- ・ 「夢の美術館：大阪コレクションズ」では、大阪市立近代美術館建設準備室とサントリーミュージアム[天保山]のコレクションの状態と当館のコレクションの状態とを確認し、相互に保存・修復についての情報交換を行った。

(4) 所蔵作品の貸与等

館名	貸出件数	貸出点数	特別観覧件数	特別観覧点数
東京国立近代美術館本館	73	319	139	320
東京国立近代美術館工芸館	21	168	37	128
京都国立近代美術館	74	709	68	130
国立西洋美術館	17	20	56	119
国立国際美術館	31	94	18	20
計	216	1,310	318	717

・フィルムセンター

種別	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
映画フィルム	58	189	78	193	41	148

種別	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
映画関係資料	7	44	46	369

・写真作品観覧制度（プリントスタディ）

摘要	件数	観覧者数	観覧作品点数
写真作品	10	27	482

(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

平成18年8月7日（月）～9日（水）の3日間、東京国立近代美術館において、131名の参加を得て開催された。この研修では、小・中学校の教員、美術館の学芸員、教育委員会の指導主事が一堂に会し、美術の鑑賞力を高めるための講演（子どもの心と鑑賞、創造的行為と

しての鑑賞，美術館教育の歴史），ギャラリートーク（鑑賞授業例の研究），美術館と学校の連携を念頭においた事例紹介，グループワーク及び発表等が行われた。国立美術館初の試みとなった，この研修では，全国の鑑賞教育の実践例が紹介され，鑑賞教育充実のための，それぞれの役割分担，相互協力について活発な情報交換が行われた。

先駆的・実験的な教材やプログラムの開発

鑑賞教育の教材に関するワーキンググループを設置し， 作品解説シート， ティーチャーズガイド， 美術工作セットの開発について，検討に着手した。

（ 6 ）美術館活動を担う中核的人材の育成

館 名	インターンシップ受入数	博物館実習受入数
東京国立近代美術館	15	27
京都国立近代美術館	5	-
国立西洋美術館	10	-
国立国際美術館	7	-
国立新美術館	10	-
計	47	27

（ 7 ）全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築

企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館 名	共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	14	20
京都国立近代美術館	8	13
国立西洋美術館	2	3
国立国際美術館	3	6
国立新美術館	1	11
計	26	52

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

【東京国立近代美術館本館】

藤田嗣治展，吉原治良展，都路華香展，鬘光展など，いずれも長い準備期間をかけた本格的な回顧展では，他館の学芸員と共同して作品，作家の事績，研究史（文献）等の調査に当たったことにより，単館ではなし得ない幅広い成果を挙げることができた。また，「モダン・パラダイス」展や「揺らく近代」展のようにテーマ設定や展示方法などに工夫を要する展覧会に関しては，前者では大原美術館と，後者では京都国立近代美術館との共同研究によって，さまざまな視点からの提案を取りまとめる作業の積み重ねが，展示やカタログの斬新さ等につながった。これらの作業を通じて，人的ネットワークの緊密化が図られたことの成果も大きい。

【工芸館】

松田権六展では，松田自身の作品にとどまらず，石川県立美術館，MOA美術館，目白漆芸文化財研究所との共同研究によって明らかにされた松田が学んだ古美術作品，先達の作品，さらに松田の教えに導かれた後進の作品を展示することで，これまででない多面的な展示が可能となり，展覧会の内容をより深めることができた。また「三輪壽雪」展では，作家の地元美術館との共同研究により，地の利を生かした詳細な資料集めを行い，資料と作品とが一体となった厚みのある展示内容にすることができた。特に初の回顧展ということもあり，研究者の交流

なくしては実現できなかった有意義な共同研究となった。

【フィルムセンター】

- ・ オーストラリア映画祭：同国の古典作品の多くを所蔵するオーストラリア国立映画音響保存所と協議し、同国の映画史の流れに基づいた作品選定を行った。
- ・ 発掘された映画たち in 福岡：フィルムセンターで行われた同名企画を踏まえて、福岡市総合図書館との間で、作品の映画史的意義の検討を含めた選定を行った。

【京都国立近代美術館】

砺波市美術館での京都国立近代美術館所蔵写真作品による展覧会の開催は、開催館学芸員と当館研究員の数ヶ月にわたる集中的研究と共同作業により展覧会構成を行ったものであり、研究者同士の連携と信頼関係を築き上げた。

【国立西洋美術館】

国立西洋美術館が企画した、ロダンとカリエール展は、フランスの国立研究諸機関との共同研究により国立西洋美術館（東京）で開催の後、展覧会の内容が認められオルセー美術館（パリ）に巡回した。このことは調査研究及び展覧会開催に関わる国際交流において日本の美術館のイニシアティブを示した画期的事例である。

【国立国際美術館】

中東欧美術に関する共同研究を実施し、単行本「ポーランド学を学ぶ人のために」（共著）を刊行した。

また、国際美術の学芸員からの働きかけによって実現した「大坂コレクションズ」展における共同研究を通じて、他館のコレクションや企画展への取り組み方を参照し交流を深めた。

【国立新美術館】

「異邦人（エトランジェ）たちのパリ」展では、展示構成、作家・作品調査、図録作成等について、ポンピドー・センター（フランス）と共同で取り組んだ。来年度以降計画している展覧会についても国内外の美術館等と共同で調査研究に取り組んだ。

キュレーター研修

館名	受入人数
東京国立近代美術館	1
京都国立近代美術館	2
国立国際美術館	1
計	4

特記事項

平成18年度から、より多くの公私立美術館の学芸員の参加を得るため、経験年数（おおむね経験年数5年）による資格の緩和、研修期間の柔軟化（2ヶ月間の条件の撤廃）を実施したことにより、研修者数が増加した。

その他

【国立新美術館】

「平成18年度博物館指導者研究協議会（庶務・管理部門）」（財団法人日本博物館協会）、「平成18年度美術館等運営研究協議会」（文化庁）を開催した。

（8）我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動

国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）の正会員としての活動

2007年4月開催予定のFIAF東京会議については、FIAF事務局（ベルギー）と緊

密な連絡をとりつつ、6月の第62回年次会議（サンパウロ）、11月の運営委員会（台北）等で、準備報告を行うとともに、実施内容の検討を重ねた後、専用ニュースレター（英文）を第1号から第3号まで発行した。会議の日程、内容等を具体化し、参加募集を行い、各加盟機関から160余名の出席表明を得た（平成19年3月現在）。

日本映画情報システムの運営

平成17年度に公開が始まった文化庁の「日本映画情報システム」については、「日本映画情報システム」調査運営に関する会議（6回）及び文化庁の内部検討会議（月2回程度）に出席し、情報やノウハウの提供を行い、システムの開発と運営に主体的に関わった。

所蔵映画フィルム検索システムの拡充

「所蔵映画フィルム検索システム」については、平成17年度にWeb上で公開を開始し、公開件数は4,300件となった。

映画関係団体等との連携

日本映画の海外普及に関する関係諸団体による会合の開催

財団法人日本映像国際振興協会の提案を受け、映画祭などにおいて、日本映画の新作、旧作の非営利上映等の普及活動を行っている4団体の間で会合を持ち、各団体の活動内容などの情報交換を行った。

フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討

平成18年度は以下のとおり検討を行った。

- 第1回 4月21日「フィルム・アーカイブとしての機能充実について」
- 第2回 5月17日「相模原分館の今後について - 収蔵庫問題 - 」
- 第3回 7月20日「フィルム・アーカイブとしての上映と展示事業の在り方について」
- 第4回 9月26日「収集・保存事業と上映事業について」
- 第5回 11月28日「F I A Fを中心とした収集・保存及び国際交流について」

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務の効率化のための取り組み

(1) 各美術館の共通的な事務の一元化

本部及び東京国立近代美術館では、物品の発注、有期雇用職員の給与計算、旅費・謝金の支給事務の一元化を図るため、本部の財務係と東京国立近代美術館の経理係及び用度係の3係を改組して本部2係（財務担当及び会計担当）体制とし、東京国立近代美術館の会計事務については、本部の兼任によって処理することとした。

京都国立近代美術館では、経理係及び用度・施設係の2係を改組し、1係（会計担当）体制とした。

(2) 使用資源の削減

省エネルギー（5年計画で1年に1.03%の減少）

使用量、使用料金の削減割合（対前年度比）

館名	使用量			使用料金		
	電気	ガス	合計	電気	ガス	合計
東京国立近代美術館本館	98.3%	114.7%	108.5%	99.3%	133.8%	110.0%
東京国立近代美術館工芸館	108.7%	-	108.7%	106.8%	-	106.8%
東京国立近代美術館フィルムセンター	96.9%	-	96.9%	98.2%	-	98.2%
京都国立近代美術館	99.4%	89.6%	94.0%	98.6%	105.1%	100.2%
国立西洋美術館	97.7%	101.1%	99.6%	99.4%	113.8%	103.7%
国立国際美術館	88.0%	-	88.0%	99.1%	-	99.1%
国立新美術館	-	-	-	-	-	-
法人全体	152.1%	176.9%	163.6%	161.1%	260.5%	181.7%
法人全体（新美術館を除く）	96.0%	104.4%	99.9%	99.3%	118.9%	103.4%

- ・国立新美術館は、前年度実績がないため、削減割合を記載していない。
- ・東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。
- ・使用量の合計は、電気1kwhあたり3.6MJ、ガス1m³あたり41.1MJ（資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量表」による。）に換算して合計したものである。

特記事項（増減の理由等）

省エネルギーについては、照明器具の省エネルギー化、空調設定温度の変更（美術作品のない区画について、夏季28℃、冬季20℃）、使用していない設備機器類の停止及び職員に対する啓発により、使用エネルギーの削減に努めた。しかし、電気は東京国立近代美術館工芸館で観客数増加に伴い空調に負荷がかかったこと、ガスは東京国立近代美術館及び国立西洋美術館で暖冬の影響により、暖房運転に加えて温度を下げるための冷房運転を行う必要があったため、空調に負荷がかかったことにより、それぞれ使用量が昨年度より増加した。法人全体としては、国立新美術館が開館したことにより、前年度より大幅に増加した。

廃棄物減量化（排出量を5年期間で5%減少）

排出量、廃棄料金の削減割合（対前年度比）

館名	排出量			廃棄料金	
	一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物
東京国立近代美術館本館	80.5%	83.4%	81.2%	80.5%	83.4%

東京国立近代美術館工芸館	94.9%	119.3%	98.7%	94.9%	119.3%
東京国立近代美術館フィルムセンター	45.6%	125.2%	91.9%	47.6%	122.4%
京都国立近代美術館	172.8%	0%	79.4%	-	0%
国立西洋美術館	99.1%	87.9%	95.0%	89.8%	82.9%
国立国際美術館	99.7%	0%	92.3%	100.0%	0%
国立新美術館	-	-	-	-	-
法人全体	122.4%	84.0%	106.5%	102.1%	75.9%
法人全体（新美術館を除く）	103.9%	63.8%	87.3%	80.3%	56.8%

- ・国立新美術館は、前年度実績がないため、削減割合を記載していない。
- ・京都国立近代美術館は、一般廃棄物の処理を清掃業者に一括して委託しており、廃棄料金を算出できない。

特記事項（増減の理由等）

展覧会のディスプレイについて、製作段階からの資材使用量削減等により、発生する廃棄物の削減に努めた。また、館内LANによる通知文書の発信及びサーバ保存文書の共同利用によるペーパーレス化に取り組むとともに、古紙の分別回収を進めることにより、廃棄物の削減を図った。しかし、一般廃棄物は京都国立近代美術館の入館者数増により、産業廃棄物は東京国立近代美術館工芸館の倉庫整理や同フィルムセンターからの国立新美術館設立準備室移転に伴う産業廃棄物が発生したため、それぞれ排出量・廃棄料金が増加した。

リサイクルの推進

古紙の再利用，OA機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を行った。

（3）美術館施設の利用推進

外部への施設の貸出

各館の貸出施設名	貸出日数	貸出可能日数	貸出利用率
東京国立近代美術館本館（講堂）	23日	299日	7.7%
東近美フィルムセンター（小ホール）	14日	187日	7.5%
東近美フィルムセンター（会議室）	40日	220日	18.2%
京都国立近代美術館（講堂）	38日	260日	14.6%
国立西洋美術館（講堂）	21日	312日	6.7%
国立西洋美術館（会議室）	9日	288日	3.1%
国立国際美術館（講堂）	36日	292日	12.3%
国立国際美術館（会議室）	0日	146日	0.0%
計	181日	2,004日	9.0%

- ・国立新美術館は、平成18年度は外部貸出を行っていない。
- ・貸出可能日数は、年末年始休館及び館事業により使用した日数を除いたもの。

特記事項

講堂及び会議室について、館の事業に差し支えない範囲で、外部への貸出を行った。講堂については、利用促進を図るため、館のホームページに利用案内を掲載するとともに、各種団体を訪問して講堂の設備や貸出料金等の説明を行うなどのきめ細やかな対応をした。また、フィルムセンターの小ホールについても、可能な限り外部への貸出を行った。

その他、展示室及びロビーにおいて、コンサート等イベントの開催や一般企業のプレス発表

を行った。

(4) 民間委託の推進

一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次の外部委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 会場管理業務，(イ) 設備管理業務，(ウ) 清掃業務，(エ) 保安警備業務，(オ) 機械警備業務，(カ) 収入金等集配業務，(キ) レストラン運営業務，(ク) アートライブラリ運営業務，(ケ) ミュージアムショップ運営業務，(コ) 美術情報システム等運営支援業務，(サ) ホームページサーバ運用管理業務

国立新美術館は，施設管理関係業務（設備管理，保安警備，会場管理業務）を包括的に委託することにより，施設・警備等に係る連絡調整の指示系統の一元化を行い，業務の効率化とともに管理事務の軽減を図った。公募展関係については，バックヤードの管理業務をサポートする業者に対し，トラックの入出管理・展示作業・備品管理等の業務委託を，平成19年3月から実施した。

東京国立近代美術館は，本館・工芸館とフィルムセンターの会場管理業務について個別に委託していたが，平成19年度から一本化し，管理業務の軽減を図ることとした。

国立西洋美術館は，電話交換業務の委託について検討を行い，平成19年度からの実施を決定した。

広報・普及業務の民間委託の推進

(ア) 情報案内業務，(イ) 広報物等発送業務，(ウ) 交通広告等掲載，(エ) ホームページ改訂・更新業務，(オ) インターネット検索サイト，(カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務，(キ) 雑誌「ぴあ」広告掲載年間契約及びチケット販売委託，(ク) 講堂音響設備オペレーティング委託を行った。

(5) 競争入札の推進

一般競争入札の実績

館名	一般競争入札件数	一般競争入札の占める割合	総契約件数(百万円以上)
東京国立近代美術館	9件	7.1%	127件
京都国立近代美術館	5件	9.1%	55件
国立西洋美術館	5件	6.6%	76件
国立国際美術館	6件	9.7%	62件
国立新美術館	31件	36.9%	84件
計	56件	13.9%	404件

特記事項

平成18年度から随意契約基準額を500万円に引き下げることにより，一般競争入札の推進を図った。また，更なる推進を図るため，平成19年度から随意契約基準額を引き下げるための規則改正を行った。

国立西洋美術館は，近隣の東京国立博物館・東京藝術大学との連携による物品の共同契約を実施した。

2 事業評価及び職員の研修等

外部有識者による事業評価

ア 本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を2回（平成18年7月10日及び平成19年2月26日）開催し、平成17年度事業実績及び第2期中期計画について説明聴取の上、意見交換を行った。また、平成18年度事業の実施状況及び19年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、独立行政法人国立美術館外部評価委員会を3回（平成18年4月18日、5月17日及び6月7日）開催し、平成17年度事業実績について説明聴取の上、審議、評価報告書を取りまとめた。

イ 東京国立近代美術館

評議員会（美術・工芸部会）を3回（平成18年7月4日、10月23日及び平成19年2月16日）開催し、平成17年度事業実績、平成18年度事業の実施状況及び平成19年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、評議員会（映画部会）を2回（平成18年7月7日及び平成19年2月23日）開催し、平成17年度事業実績、第2期中期計画、平成18年度事業経過報告及び平成19年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回（平成18年7月19日）開催し、平成17年度事業実績及び平成18年度年度計画及び予算について説明聴取の上、意見交換を行った。

エ 国立西洋美術館

評議員会を1回（平成18年7月10日）開催し、平成17年度事業報告並びに平成18年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

オ 国立国際美術館

評議員会を1回（平成19年2月23日）開催し、平成17年度事業の外部評価結果、平成18年度事業の実施状況及び平成19年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

カ 国立新美術館

評議員会を2回（平成18年9月13日及び平成19年3月1日）開催し、平成18年度準備状況・今後の予定、平成18年度事業の実施状況及び平成19年度年度計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

3 管理情報の安全性向上

個人情報の保護については、個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに、個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際は、当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることなど、厳格な書類管理の徹底について注意喚起を行った。

また、独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムへの画像掲載許諾のため、著作権者情報の集積を進めるに当たっては、当該個人情報を記録した電子媒体及び紙媒体を、施錠保管庫に納めるなど情報管理徹底のための措置を講じた。

個人情報の取り扱いについて、監査責任者による監査を実施した（10月16日）。

ウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど、電子メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

情報システムの管理に当たっては、システム担当の新人職員に情報の取り扱いについての研修を実施するとともに、職員に対しては、私物のパソコン等を館内に持ち込ませない、職場のパソコン

を自宅に持ち帰させない，自分用のパソコンを他人に使用させない，パスワードを他人に教えない（知られないようにする），不審なメールやファイル等は開かないなどの注意喚起を行った。

4 人件費の抑制，給与体系の見直し

人件費決算

決算額 1,016,684 千円（対平成 17 年度比較 100.0%）

- ・人件費は常勤職員を対象とし，退職金，福利厚生費を含まない。
- ・決算額は，新俸給表への切替及び地域手当新設による増減の影響を含む。

特記事項

平成 18 年度に国立新美術館の定員として新たに 1 名の増員が認められ増額の要素が発生したが，人事異動に伴う採用者の若年化など人件費の削減を図り，平成 17 年度に比してほぼ同額に抑制することができた。

給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して，平成 18 年 4 月から俸給表の水準を全体として平均 4.8% 引下げるとともに，級の構成の見直し，きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の 4 分割を行ったほか，調整手当を廃止し，地域手当を新設するなど，国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。

また，国立美術館の職員が行う職務は，国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし，給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に，これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成 17 年度）」平成 18 年 7 月 28 日総務省公表資料を参照。）。

ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

< 国との比較 >

項目	国	国立美術館
平均年齢	40.3 歳	40.5 歳
学歴（大学卒の割合）	46.1%	60.4%
調整手当支給率 1	39.1%	100%

1 12%・10%の支給地の割合

< 他の独立行政法人との比較 > 17 年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	7,363 千円	6,212 千円
平均年齢	43.3 歳	40.5 歳
ラスパイレス指数 2	107.5	98.2

2 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

< 国との比較 >

項目	国	国立美術館
平均年齢	43.9 歳	42.9 歳
学歴（大学卒の割合）	96.4%	98.1%
調整手当支給率 3	39.1%	100%

3 12%・10%の支給地の割合

< 他の独立行政法人との比較 > 17 年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	9,108 千円	8,243 千円
平均年齢	44.4 歳	42.9 歳
ラスパイレス指数 4	102.6	95.5

4 国の研究職俸給表適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬

項 目	全独立行政法人	国立美術館
法人の長	18,409千円	20,002千円
理事	16,049千円	17,127千円

平成18年度の役職員の報酬・給与等について

別紙「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1 予算（単位：千円）

区 分	計 画 額	実 績 額	増 減 額
収入			
運営費交付金	6,778,748	6,778,748	0
展示事業等収入（注1）	523,723	786,365	262,642
寄附金収入	0	29,489	29,489
施設整備費補助金	0	0	0
計	7,302,471	7,594,602	292,131
支出			
運営事業費	7,302,471	7,273,804	28,667
管理部門経費	1,481,469	1,235,572	245,897
うち人件費（注2）	332,203	419,766	87,563
うち一般管理費（注3）（注4）	1,149,266	815,806	333,460
事業部門経費	5,821,002	6,038,232	217,230
うち人件費（注2）（注4）	868,379	760,829	107,550
うち展覧事業費（注3）	1,857,088	2,182,840	325,752
うち調査研究事業費（注4）	210,132	200,973	9,159
うち教育普及事業費（注5）	480,407	489,566	9,159
うち国立新美術館 開館準備等事業費等	2,404,996	2,404,024	972
施設整備費	0	0	0
計	7,302,471	7,273,804	28,667
収支差引	0	320,798	320,798

主な増減理由

- （注1）入場料収入の増。
- （注2）予算計画時に事業部門に計上していた人件費のうち、国立新美術館開館準備にかかるものを、決算時に管理部門に計上したため。
- （注3）予算計画時に一般管理費に計上していた光熱水料のうち、展示室等にかかる部分について決算時に展覧事業費に計上したため。
- （注4）業務の効率化による支出減。
- （注5）受託事業の経費を支出したことによる増。

特記事項

運営費交付金を充当して行う業務では、人件費が予算に比べて19,987千円の支出減となった。これは退職者の不補充や人事異動、退職者の補充の際に若い職員を採用したことにより、人件費を抑制したことが主な要因である。物件費は、効率的な予算執行に努め、予算に比べ8,680千円の支出減となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったことが、入場料収入の増加につながった。その他事業収入では、国立新美術館がレストラン等の不動産賃貸料を売上に応じた割合で決定する方式を採用し、レストラン等の利用状況が好調だったことが、不動産賃貸収入の増加に繋がった。これらの理由により、展示事業等収入は予算に比べて262,642千円の収入増となった。寄附金については、21件、29,489千円を獲得した。そのうち16,255千円を当年度の収益とし、残りの13,234千円を次年度以降に繰り越して執行する予定である。

2 収支計画（単位：千円）

区 分	計画額	実績額	増 減額
費用の部			
經常経費	5,868,261	5,885,431	17,170
管理部門経費	1,331,477	1,158,678	172,799
うち人件費	332,203	419,627	87,424
うち一般管理費（注1）	999,274	739,051	260,223
事業部門経費	4,427,996	4,596,101	168,105
うち人件費	868,379	760,522	107,857
うち展覧事業費（注2）	839,796	1,121,439	281,643
うち調査研究事業費（注2）	200,393	201,149	756
うち教育普及事業費（注2）	467,485	485,997	18,512
うち国立新美術館 開館準備等事業費等（注1）	2,051,943	2,026,994	24,949
減価償却費	108,788	130,652	21,864
収益の部	5,868,261	6,163,879	295,618
運営費交付金（注1）	5,235,750	5,231,110	4,640
展示事業等の収入（注3）	523,723	802,620	278,897
資産見返運営費交付金戻入	22,722	109,153	86,431
資産見返寄附金戻入	57	91	34
資産見返物品受贈額戻入	86,009	20,905	65,104
經常利益		278,448	
臨時損失		1,303	
臨時利益		754	
当期純利益		277,899	
当期総利益		277,899	

主な増減理由

（注1）固定資産の取得が見込より多く、費用への計上が少なかったため

（注2）固定資産の取得が見込より少なく、費用への計上が多かったため

（注3）入場料収入の増

3 資金計画（単位：千円）

区分	計画額	実績額	増減額
資金支出	7,302,471	9,243,885	1,941,414
業務活動による支出（注1）	6,776,763	8,814,138	2,037,375
投資活動による支出（注2）	525,708	429,747	95,961
資金収入	7,302,471	7,556,892	254,421
業務活動による収入	7,302,471	7,556,892	254,421
運営費交付金による収入	6,778,748	6,778,748	0
展示事業等による収入（注3）	523,723	778,144	254,421
投資活動による収入	0	0	0
施設整備補助金による収入	0	0	0
資金増加額		1,686,993	
資金期首残高		3,096,284	
資金期末残高		1,409,291	

主な増減理由

（注1）積立金を国庫納付したことによる

（注2）固定資産の取得が見込より少なかったことによる

（注3）入場料収入の増

4 貸借対照表（単位：千円）

資産の部		負債及び資本の部	
資産の部		負債の部	
流動資産	1,487,076	流動負債	1,201,567
固定資産		固定負債	1,265,004
1．有形固定資産	121,277,623		
2．無形固定資産	48,241	負債合計	2,466,571
固定資産合計	121,325,864		
		資本の部	
		資本金	81,019,149
		資本剰余金	38,667,789
		利益剰余金	659,431
		資本合計	120,346,369
資産合計	122,812,940	負債・資本合計	122,812,940

5 短期借入金

実績なし

6 重要な財産の処分等

実績なし

7 剰余金

(1) 当期末処分利益の処分計画

区分	金額(円)
当期末処分利益	277,898,619
当期総利益	277,898,619
処分計画	
積立金(通則法第44条第1項)	23,442,055
目的積立金(通則法第44条第3項)	254,456,564
(使途の内訳)	
1 美術作品の購入・修理	
2 調査研究・出版事業の充実	
3 企画展等の追加実施	
4 入館者サービス, 情報提供の質的向上, 老朽化対応のための設備の充実	

(2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

(3) 目的積立金の使用状況(単位:円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
4 入館者サービス, 情報提供の質的向上, 老朽化対応のための設備の充実	677	0	677	0

減少の理由

国庫納付のため, 通則法第44条第1項積立金に振り替えたことによる。

(4) 積立金(通則法第44条第1項)の状況(単位:円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	1,437,482,430	442,879,265	1,880,361,695	0
前中期目標期間繰越積立金	0	381,532,745	0	381,532,745

減少の理由

国庫納付及び前中期目標期間繰越積立金に振り替えたことによる。

8 人事に関する計画

職種別人員の増減状況(過去5年分)

(単位:人)

職種	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
定年制研究系職員	53	58	60	60	61
定年制事務系職員	63	64	68	70	70

公務員の給与改定に関する取扱いについて(平成18年10月17日閣議決定)に基づき, 公務員の例に準じて措置, 対応している。

人事交流の推進

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

職員の研修等

ア 東京国立近代美術館

- ・ 人事院主催「平成 18 年度関東地区新採用職員研修」(3 名)
- ・ 人事院主催「第 5 回関東地区窓口クレーム対応研修」(1 名)
- ・ 人事院主催「第 32 回関東地区課長補佐研修」(1 名)
- ・ 人事院主催「第 37 回関東地区係長研修」(1 名)
- ・ 財務省会計センター主催「第 44 回政府関係法人会計事務職員研修」(1 名)
- ・ 国家公務員共催組合連合会主催「平成 18 年度長期給付実務研修」(1 名)
- ・ 国立国会図書館主催「第 2 回レファレンス協同データベースシステム研修」(1 名)
- ・ 文化庁主催「平成 18 年度図書館等職員著作権実務講習会」(2 名)
- ・ 東京大学主催「平成 18 年度係長級研修」(1 名)
- ・ 東京大学主催「平成 18 年度係員研修」(1 名)
- ・ 財団法人日本博物館協会主催「平成 18 年度誰にもやさしい博物館づくり事業バリアフリー研修会」(2 名)
- ・ 文部科学省在外研究員として海外へ派遣 (1 名)
- ・ 事務系職員に対して財務研修会の企画・実施，東京国立博物館主催の税金講演会に職員を派遣
- ・ 平成 18 年 7 月から 8 月中の計 4 日間，東京消防庁本所防災館において防災体験 (計 61 名参加)
- ・ 本館・工芸館において消防訓練を実施 (平成 19 年 1 月 24 日実施，49 名参加)
- ・ 放送大学受講 (7 名)

イ 京都国立近代美術館

- ・ 人事院主催「近畿地区中堅係員研修」(1 名)
- ・ 人事院主催「人事院勧告に関する説明会」(1 名)
- ・ 人事院主催「近畿地区上級係員研修」(1 名)
- ・ 人事院主催「災害補償実務担当者研修会」(1 名)
- ・ 人事院主催「広域異動手当等改正給与法説明会」(1 名)
- ・ 京都地方法務局主催「京都地方法務局管内行政庁訟務事務担当者会議」(1 名)
- ・ 財団法人日本博物館協会主催「博物館指導者研究協議会」(1 名)
- ・ 新任職員オリエンテーション(3 名)
- ・ 国立美術館財務研修会(5 名)

ウ 国立西洋美術館

- ・ 人事院主催「プレゼンテーション研修」(1 名)
- ・ 文部科学省主催「科学研究費補助金制度についての説明会」(1 名)
- ・ 文部科学省主催「科学研究費補助金に係る不正使用等防止に関する説明会」(1 名)
- ・ 独立行政法人国立公文書館主催「平成 18 年度公文書館等職員研修会」(1 名)
- ・ 台東区主催「平成 18 年度事業所ごみ減量体験講座」(1 名)
- ・ 上野消防署主催「防火管理講習」(1 名)
- ・ 英会話研修(1 名)
- ・ タイムマネジメント研修「効率的な時間活用の仕事術」(11 名)
- ・ 給与計算ソフトウェア講習会(1 名)

- ・平成 18 年度国立美術館新任職員オリエンテーション (7 名)
- ・財務研修会(3 名)
- ・社会保険事務講習会(1 名)
- ・年末調整事務関連説明会(1 名)
- ・消防・防災訓練 (業者及びボランティア等を含む。平成 19 年 3 月 19 日)

エ 国立国際美術館

- ・人事院主催「接遇のあり方に関する実務研修」
- ・文部科学省，国立教育政策研究所主催「平成 18 年度博物館職員講習」
- ・大阪労働局主催「請負・委託発注元公共団体セミナー」

オ 国立新美術館

- ・人事院主催「平成 18 年度関東地区新採用職員研修」(1 名)
- ・人事院主催「第 83 回関東地区中堅研修」(1 名)
- ・文化財研究所主催「平成 18 年度保存担当学芸員研修」(1 名)
- ・総務省関東管区行政評価局主催「情報公開・個人情報保護法制度の運営に関する説明会」(1 名)
- ・消防訓練の実施 2 回 平成 18 年 11 月 9 日：部分訓練 (麻布消防署の協力)，平成 19 年 3 月 13 日：総合訓練 (麻布消防署との合同訓練)
- ・社団法人東京労働基準協会連合主催「衛生推進者養成講習会」(1 名)
- ・労働保険等説明会 (1 名) 平成 19 年 3 月 9 日
- ・全国美術館会議「第 22 回学芸員研修会」(1 名)

9 施設整備に関する計画

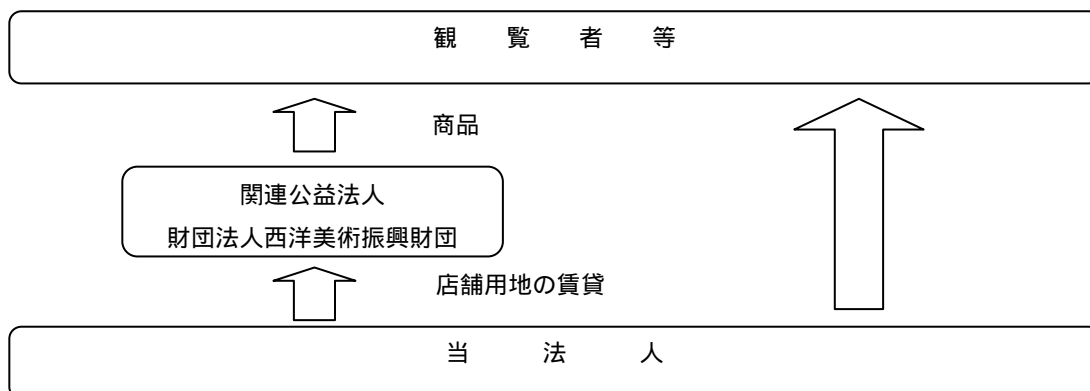
東京国立近代美術館本館熱源機器設備更新工事，京都国立近代美術館美術品収蔵ラック増設工事，国立西洋美術館新館空気調和設備改修その他工事及び国立新美術館土地購入について，平成 19 年度予算に施設整備費補助金が計上された。平成 19 年度から工事及び購入を行う予定である。

10 関連公益法人

(1) 関連公益法人の概要

名称	業務の概要	独立行政法人との関係
財団法人西洋美術振興財団	西洋美術に関する展覧会・講演会等の開催及びその支援	西洋美術館内において，当法人から店舗用地を賃借している

(2) 関連公益法人の取引の関連図



(3) 関連公益法人の財務状況 (単位 : 千円)

決算月	資産	負債	正味財産	当期収入 合計額	当期支出 合計額	当期収支 差額
19年3月	192,819	9,521	183,298	39,826	51,290	11,464

(4) 独立行政法人国立美術館が拠出等をしている関連公益法人の基本財産等の状況

出えん, 拠出, 寄付等の金額	会費, 負担 金等の金額
-	-

(5) 関連公益法人との取引の状況 (単位 : 千円)

関連公益法人に対 する債権債務の金 額	関連公益法人に対 し行っている債務 保証の金額	関連公益法人の事 業収入の金額	(うち, 独立行政法人国 立美術館の発注等に係わ る金額及びその割合)
-	-	34,826	-

独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

平成18年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

平成18年度においては、平成17年度の評価結果を基に検討の結果、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

役員報酬基準の改定内容

法人の長

国家公務員の給与及び民間企業の役員の報酬等を考慮して、平成18年4月から俸給月額を約6.7%引き下げ、また、従来の調整手当に替えて地域手当を新設した。(ただし、経過措置が適用されている。)

理事

国家公務員の給与及び民間企業の役員の報酬等を考慮して、平成18年4月から俸給月額を約6.7%引き下げ、また、従来の調整手当に替えて地域手当を新設した。(ただし、経過措置が適用されている。)

監事(非常勤)

特に改定はなく月額17,000円を支給している。

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成18年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況	
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)		就任	退任
法人の長	千円 20,000	千円 12,780	千円 5,687	千円 1,533 (地域手当)		
理事 (3人)	千円 56,991	千円 36,492	千円 16,080	千円 3,905 (地域手当) 514 (通勤手当)		
理事 (非常勤) (0人)	千円	千円	千円	千円		
監事 (0人)	千円	千円	千円	千円		
監事 (非常勤) (2人)	千円 408	千円 408	千円	千円		

注:「地域手当」とは、当該地域における民間の賃金水準を基礎とし、当該地域における物価等を考慮して規則に定める地域に在勤する役員に支給されているものである。

3 役員の退職手当の支給状況(平成18年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	摘要
法人の長	千円	年 月			該当者なし
理事	千円	年 月			該当者なし
理事 (非常勤)	千円	年 月			該当者なし
監事	千円	年 月			該当者なし
監事 (非常勤)	千円	年 月			該当者なし

職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

人件費管理の基本方針

人員数及び効率化等を勘案した人件費を算出し、その範囲内で執行した。

職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与決定を行っている。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

〔能率、勤務成績が反映される給与の内容〕

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与:勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

ウ 平成18年度における給与制度の主な改正点

国家公務員の給与及び民間企業の従業員の給与等を考慮して、平成18年4月から俸給表の水準を全体として平均4.8%引下げ、特に中高年齢層について7%引き下げることにより給与カーブのフラット化を図った。
級の構成を見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸を4分割した。
民間賃金の地域間格差が適切に反映されるよう、従来の調整手当に替えて、主に民間賃金の高い地域に勤務する職員に対し、地域手当を支給することとした。

2 職員給与の支給状況

職種別支給状況

区分	人数	平均年齢	平成18年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	101	41.9	7,333	5,403	171	1,930
事務・技術	44	39.5	6,199	4,552	182	1,647
研究職種	54	43.4	8,353	6,165	163	2,188
医療職種 (病院医師)	0					
医療職種 (病院看護師)	0					
教育職種 (高等専門学校教員)	0					
技能・労務職種	3	49.2	5,612	4,178	174	1,434

注:技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

在外職員	該当なし	人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					

任期付職員	該当なし	人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
事務・技術		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
研究職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院医師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院看護師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
教育職種 (高等専門学校教員)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
技能・労務職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					

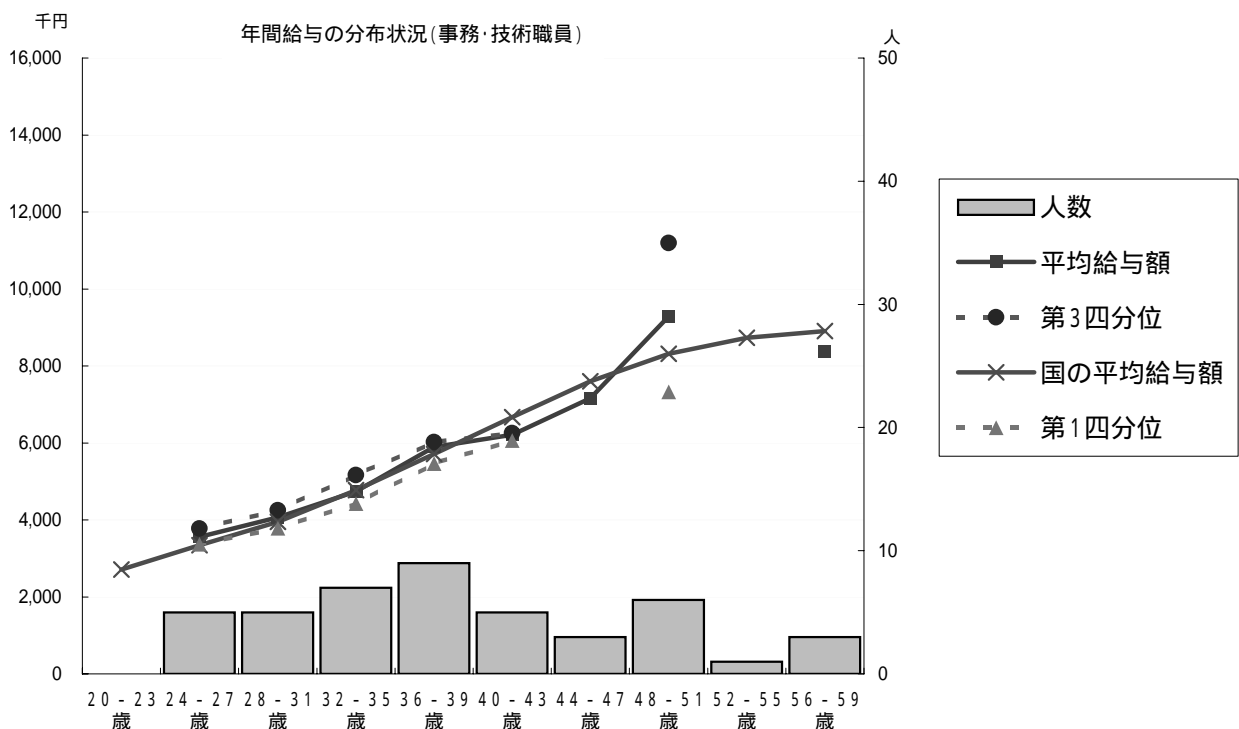
再任用職員	該当なし	人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
事務・技術		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
研究職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院医師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院看護師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
教育職種 (高等専門学校教員)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
技能・労務職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					

非常勤職員		人	歳	千円	千円	千円	千円
		2					
事務・技術		人	歳	千円	千円	千円	千円
		2					
研究職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院医師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
医療職種 (病院看護師)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
教育職種 (高等専門学校教員)		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					
技能・労務職種		人	歳	千円	千円	千円	千円
		0					

注1:常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2:非常勤職員の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「平均年齢」以下の項目を記載していない。

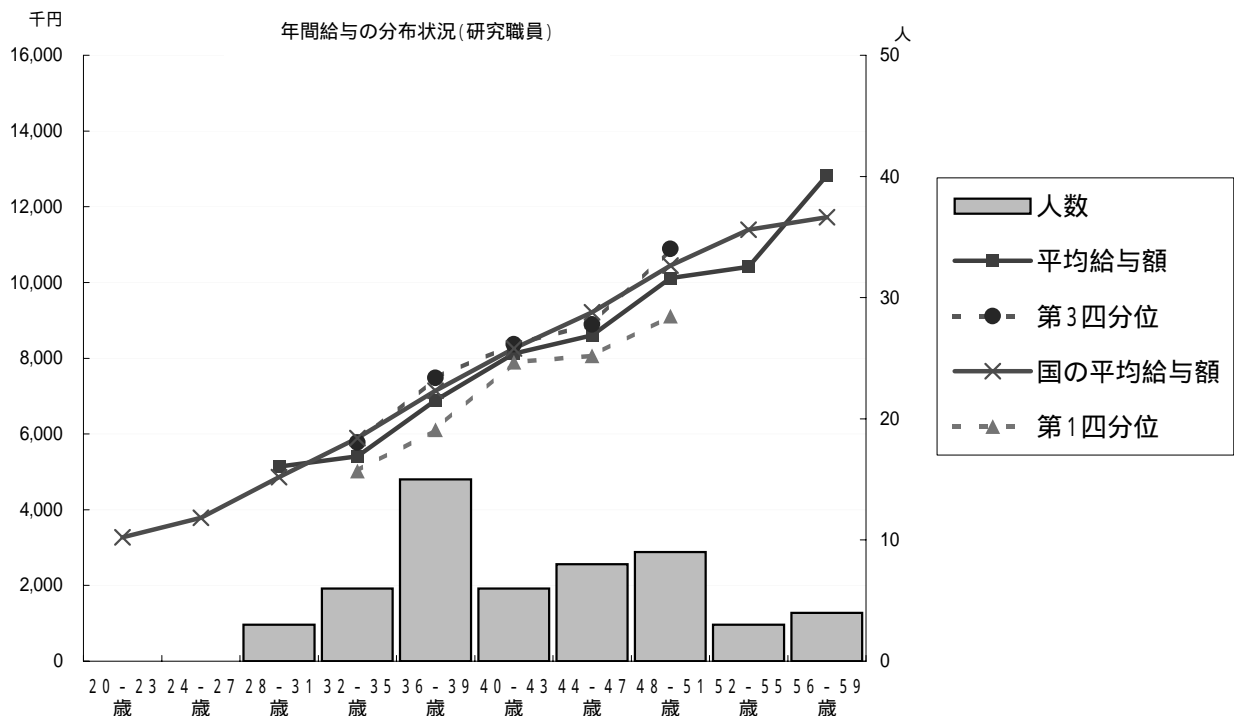
年間給与の分布状況(事務・技術職員 / 研究職員)



注1: の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、まで同じ。

注2: 年齢44 - 47歳、52 - 55歳及び56 - 59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3分位折れ線については表示していない。

注3: 年齢52 - 55歳の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均給与額を示す点を表示していない



注: 年齢28 - 31歳、52 - 55歳及び56 - 59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3分位折れ線については表示していない。

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	平均	四分位
			第1分位		第3分位
代表的職位		歳	千円	千円	千円
副館長・部長	2		-		-
課長	1		-		-
本部室長	2		-		-
室長	5	46.1	6,914	7,235	7,765
本部係長	6	42.8	5,799	6,256	6,855
係長	8	44.6	6,061	6,532	7,031
本部係主任	1		-		-
係主任	6	36.3	5,161	5,326	5,465
本部一般職員	6	29.3	3,520	3,986	4,626
一般職員	7	29.5	3,536	3,893	4,252

注：副館長・部長、課長、本部室長及び本部係主任の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「平均年齢」以下の項目を記載していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	平均	四分位
			第1分位		第3分位
代表的職位		歳	千円	千円	千円
副館長	2		-		-
課長	8	52.5	9,974	11,136	11,818
本部主任研究員	1		-		-
主任研究員	30	43.4	7,479	8,111	8,718
研究員	13	34.8	5,193	5,513	5,776

注：副館長及び本部主任研究員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「平均年齢」以下の項目を記載していない。

職級別在職状況等(平成19年4月1日現在)(事務・技術職員 / 研究職員)

(事務・技術職員)

区分	計	10級	9級	8級	7級	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		施設の長	副館長	副館長	部長	部長 課長	課長 室長	室長 係長	係長 係主任	係主任 一般職員	一般職員
人員 (割合)	人 44	人 0 (0%)	人 1 (2.3%)	人 0 (0%)	人 1 (2.3%)	人 1 (2.3%)	人 1 (2.3%)	人 7 (15.9%)	人 18 (40.9%)	人 8 (18.2%)	人 7 (15.9%)
年齢(最高 ~最低)		歳 ~	歳 ~	歳 ~	歳 ~	歳 ~	歳 ~	歳 50~37	歳 59~35	歳 35~29	歳 31~25
所定内給 与年額(最高 ~最低)		千円 ~	千円 ~	千円 ~	千円 ~	千円 ~	千円 ~	千円 5,746~ 4,211	千円 5,102~ 3,841	千円 3,487~ 2,899	千円 2,868~ 2,399
年間給与 額(最高~ 最低)		千円 ~	千円 ~	千円 ~	千円 ~	千円 ~	千円 ~	千円 8,112~ 5,971	千円 7,093~ 5,161	千円 4,755~ 3,979	千円 3,816~ 3,316

注:9級、7級、6級及び5級については該当者が2人以下であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高~最低)」以下の事項について記載していない。

(研究職員)

区分	計	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		施設の長	副館長 課長	課長 主任研究員	主任研究員	研究員	研究員
人員 (割合)	人 54	人 0 (0%)	人 10 (18.5%)	人 15 (27.8%)	人 16 (29.6%)	人 13 (24.1%)	人 0 (0%)
年齢(最高 ~最低)		歳 ~	歳 59~50	歳 55~43	歳 44~36	歳 39~31	歳 ~
所定内給 与年額(最高 ~最低)		千円 ~	千円 10,176 ~7,424	千円 7,634~ 5,825	千円 6,375~ 4,427	千円 4,703~ 3,358	千円 ~
年間給与 額(最高~ 最低)		千円 ~	千円 14,285~ 9,974	千円 10,326 ~7,892	千円 8,526~ 6,103	千円 6,407~ 4,605	千円 ~

賞与(平成18年度)における査定部分の比率(事務・技術職員 / 研究職員)

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	65.2	68.3	66.8
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	34.8	31.7	33.2
	最高～最低	38.1～32.2	35.0～28.3	35.4～31.5

注:管理職員は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから記載していない。

(研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	65.4	68.7	67.1
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	34.6	31.3	32.9
	最高～最低	38.1～32.3	35.0～29.2	34.7～30.8

注:管理職員は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから記載していない。

職員と国家公務員及び他の独立行政法人との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員/研究職員)

対国家公務員(行政職(一))	100.7
対国家公務員(研究職)	97.1
対他法人(事務・技術職員)	93.5
対他法人(研究職員)	94.8

注: 当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他法人」においては、すべての独立行政法人を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

特になし

総人件費について

区分	当年度 (平成18年度)	前年度 (平成17年度)	比較増 減	中期目標期間開始時 (平成18年度)からの増 減
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 1,016,684	千円 1,016,475	千円 (%) 209 (0.0)	千円 (%) - (-)
退職手当支給額 (B)	千円 41,021	千円 71,731	千円 (%) 30,710 (42.8)	千円 (%) - (-)
非常勤役職員等給与 (C)	千円 266,638	千円 248,475	千円 (%) 18,163 (7.3)	千円 (%) - (-)
福利厚生費 (D)	千円 122,443	千円 108,168	千円 (%) 14,275 (13.2)	千円 (%) - (-)
最広義人件費 (A + B + C + D)	千円 1,446,786	千円 1,444,849	千円 (%) 1,937 (0.1)	千円 (%) - (-)

総人件費について参考となる事項

- ・給与、報酬等支給総額については、業務改善に伴う超過勤務時間の減少及び人事異動に伴う後任不補充(欠員)等による人件費減少がある一方で、国立新美術館の開館に伴う業務増加により、前年度と比較してほぼ同額となった。
- ・最広義人件費については、退職手当支給額が減少した一方で、非公務員化に伴い平成18年度から新規に労働保険の事業主負担分が増加したこと及び国立新美術館の業務増加に伴い、非常勤職員及び派遣職員を採用等することとなった結果、前年度と比較して0.1%微増した。
- ・中期目標において、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、平成18年度から5年間において、国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うとともに、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを進める。
- ・中期計画において、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、人件費については、平成22年度において、平成17年度予算額(1,074,071千円)に比較して、5%以上削減する。ただし、今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分については削減対象より除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費は含まない。
- また、民間賃金との地域差、給与カーブのフラット化、勤務実績の給与への反映を内容とする国家公務員の給与構造改革を踏まえて、給与体系の見直しに取り組む。
- ・給与、報酬等支給総額(実績額)
 - a 平成17年度 1,016,475千円
 - b 平成18年度 1,016,684千円
 - c 削減率 0.0%

法人が必要と認める事項

特になし